



the REFORMATION *herald*

Vol. 66, No. 4

全世界へ出て行って

WEEK OF PRAYER | DECEMBER 5 - 14, 2025

祈祷週 2025年12月5-14日

編集記 3

彼らはわたしたちを待っている

わたしたちの高い召し 5

全能者がわたしたちの側にいて道を導きつつ、
前進するよう命じておられる

炉辺で 10

家庭における温かい交わりから発せられる愛は、
永遠に続くことができる

「あなたがたの手で食物をやりなさい」 15

事態が不可能に見える時でさえ、
全能者の創造力が手の届くところにある

道やかきねのあたりに出て行って 21

あらゆる文化、階級、社会の人々に奉仕するとは
なんという特権だろう！

「あなたの信仰があなたを救ったのです」 27

どんな病気を持つ人でも一人ひとり、
信仰によって大医師に訴えるよう強く勧められている

奉仕するために生まれ、育てられる 32

人生の初期に奉仕を学び、奉仕の習慣を培うことは
何と感謝すべきことであろう！

弟子にして 37

両親や親には、永遠の目的をもって眞の教育を与える
という神聖な義務がある

今出て行こう！ 42

奉仕の分野に活力を与え、広げるよう詩によって訴える

出発の準備

もう一年が過ぎました。……いまだに生ける者の地に住めるとは、なんと感謝なことでしょう。神は恵み深く、私たちにもう少しの時間を託してくださいました。その時間を喜び、楽しみましょう。年末祈祷週は、いつも私たちの心を吟味し、イエスの再臨を同じように大切に信じる仲間の信者たちより深くつながる、実りある機会を与えてくれます。

今年、わたしたちはダイナミックで活力に満ちた使命、すなわち現在の真理を全世界に広めることに焦点を置きます。この使命が早く遂行されるほど、すべての人にとって良いことです。

「決して過ちを犯さないわたしたちの将は、わたしたちにこう命じる。『前進せよ。新たな領土へ入れ。旗を掲げ、あらゆる場所に記念碑を建てよ。神は地上に民を有し、彼らは神の律法がすべての人間の知性に拘束力を持つことを忘れていないことを知らしめよ。』」¹

この重要な使命を積極的に遂行することを目指して、「全世界に出て行く」というテーマの読み物を祈りながら読み進めるとき、わたしたちの喜びは大いに溢れ出るでしょう。

これらの読み物がもたらす大きな祝福を、孤立している人々や家から出られない人々と必ず分かち合いましょう。また、以下の日付を覚えておきましょう。

祈りと断食: 2025年12月13日（安息日）

伝道献金: 2025年12月14日（日曜日）

この祈祷週が、わたしたち一人ひとりを熱烈に鼓舞し、世界の闇を貫く光の器として、忠実な行動へと歩み出せるよう祈ります。アーメン。

1 オーストラレシア連合会議記録、1900年1月1日

「世界で最も欠乏しているものは人物である。それは、売買されない人」（教育 54）

Web: <http://www.4angels.jp>; E-mail: sdarm.shomaru@gmail.com
イラスト: Adobe Stock on the front cover; Freepik on pp. 3, 6, 8, 11, 12, 17, 19, 20, 23, 28, 31; Midjourney on pp. 4, 16, 21, 25, 32.



わたしたちのほとんどは、エチオピヤの有力な人に語るために召されたピリポの経験をよく知っています。

「しかし、主の使がピリポにむかって言った、『立って南方に行き、エルサレムからガザへ下る道に出なさい』（このガザは、今は荒れはてている）。そこで、彼は立って出かけた。すると、ちょうど、エチオピヤ人の女王カンダケの高官で、女王の財宝全部を管理していた宦官であるエチオピヤ人が、礼拝のためエルサレムに上り、その帰途についていたところであった。彼は自分の馬車に乗って、預言者イザヤの書を読んでいた。御靈がピリポに『進み寄って、あの馬車に並んで行きなさい』と言った。そこでピリポが駆けて行くと、預言者イザヤの書を読んでいるその人の声が聞えたので、『あなたは、読んでいることが、おわかりですか』と尋ねた。彼は『だれかが、手びきをしてくれなければ、どうしてわかりましょう』と答えた。そして、馬車に乗って一緒にすわるようにと、ピリポにすすめた。… そこでピリポは口を開き、この聖句から説き起して、イエスのことを宣べ伝えた。」
(使徒行伝 8：26－31、35)

これは単なる物語ではなく、真の歴史的出来事です。わたしたちは、それが今、わたしたち一人ひとりにとってどれほど重要な意味を持つのか、常に意識しているでしょうか？

「このエチオピヤ人は、ピリポのような伝道者たち、すな

わち神のみ声を聞いて、神からつかわされるところに行く人たちから、教えを受ける必要のある部類の人々を代表している。聖書を読んでも、その真の意味がわからないでいる者が多い。世界中の男女は何かを求めて天を仰いでいる。光と恵みと聖靈を求める魂から、祈りと涙とねぎごとが天にのぼっていく。多くのものは、み国の入口に立って、刈り集められるのを待つばかりになっているのである。

光を求める、福音を受け入れる準備のできた人のところに、ひとりの天使がピリポを導いた。今日も天使たちは、聖靈に舌をきよめていただき、心を純化し高めていただく働き人の歩みを導くのである。ピリポに送られた天使は、自分自身でエチオピヤ人に働きかけることもできたが、それは神の働く方法ではない。神は人が同胞のために働くよう計画しておられる。

最初の弟子たちに与えられた責務は、どの時代の信徒にも分担されてきた。福音を受けた者はみな、世に伝える尊い真理をさすけられた。神の忠実な民は常に、彼らの財源を神のみ名をあがめるために用い、彼らの才能を神への奉仕に賢く用いた積極的な伝道者であった。

過去におけるクリスチャンの無我の働きは、われわれにとって実物教訓となり、励ましとならなければならない。神の教会の会員はよきわざに熱心で、世俗的な野心を離れ、善をなして巡られたキリストのみ足跡を歩まなければ

ならない。また、同情とあわれみに満ちた心をもって、助けの必要な人々のために働き、罪びとに救い主の愛を教えなければならない。そうした働きには骨の折れる努力があるが、その報いは大きい。まじめな決心をしてこのわざに携わる者は、救い主に魂が導かれるのを見ることができる。神の任命を実践するときに伴う感化力は、人を信服させずにはおかしいからである。

出て行ってこの任命を果たす責任は、按手礼を受けた牧師にだけ負わされているのではない。キリストを受け入れた者はみな、同胞を救う仕事に召されているのである。…

救い主の任命が、みなを信じるすべての者に与えられていることを知らなければならない。神はまだ按手により牧師職に聖別されていない多くの人々を、ぶどう園に送

りこまれるであろう。」1

「ピリピとエチオピヤ人の経験の中に、主がご自分の民を召しておられる働きが提示されている。…世界には聖書を読みながら、その重要性を理解できない人々がいる。神の知識を持っている男女が、これらの魂にみ言葉を説明するために必要とされている。」2

もしあなたがこの知識によって祝福されているのであれば、あなたもその必要とされている一人です!

引用：

- 1 患難から栄光へ上巻 114、- 116 [強調追加]
- 2 教会への証 8巻 58



金曜日 2025年12月5日

わたしたちの高い召し

エレン・G・ホワイトの著書からの編纂

奉仕の祭壇にすべてを獻げるようにという召しは、すべての者に与えられる。われわれすべてのものは、エリシヤのように奉仕することも、また、持っているものを皆売るようにも求められてはいない。しかし、神は、われわれが神への奉仕をわれわれの生活の第一のものとし、この地上において、神の働きを進展させるために、一日に何かを必ず行うことを求めておられるのである。神はわれわれがみな同じ種類の働きをすることを期待しておられない。外国で働くように召される者もあれば、福音の事業を支えるために、財産を献げるように求められる者もある。神は各自の献げ物をお受けになる。必要なのは生涯とそのすべての影響力とを献げることである。このような献身をする者は、天の神の召しを聞いて、従うのである。

神の恵みにあずかる者となったすべての者に、神は他の人々のためになすべき働きをお命じになる。各自はそれぞれの立場において、「ここにわたしがあります。わたしをおつかわしください」と言わなければならない。み言葉を伝える牧師、または医師、商人、農夫、専門職、技師であっても、人はみな責任が負わせられている。自分が救われた福音を他の人々に伝えることがその人の務めである。どのような仕事に従事していても、それはこの目的のための手段でなければならないのである。1

わたしはどう始めるか？

だれひとり他の人々を助け始める前に、どこか遠隔地へ召されるまで待つ必要はない。あなたがいるところがどこで

あっても、ただちに始めることができる。すべての人の手の届くところに機会はある。あなたが責任を持っている働き、すなわち、あなたの家庭で、またあなたの近隣でなされるべき働きにとりかかりなさい。他の人があなたに行動するよう強く勧めるのを待ってはならない。神をおそれて、あなたのために命を与えて下さったお方に対する個人的な責任を念頭において、即刻出て行きなさい。あなたが個人的にキリストが召しておられるのを聞いたかのように、このお方の奉仕において最善を尽くしなさい。他に準備のできた人がいないかを探すために見てはならない。もしあなたが本当に献身しているなら、神はあなたという器を通して、やみの中で手探りしている多くの人々に光を伝える通路として用いることのできる人々を真理へと導かれる。

すべての人が何かをすることができる。言い訳をしようとして、ある人々は「わたしには家庭の義務があります、わたしの子供たちはわたしの時間やわたしの資金を必要とします」と言う。両親がた、あなたの子供たちはあなたの助け手となるべきであり、あなたが主人のために働く力や能力を増すべきである。子供たちは主の家族の若いメンバーである。彼らは神に、すなわち創造と贋いによって自分たちを所有しておられるお方に献身するよう導かれるべきである。彼らは、自分たちの体、思い、魂の力はみな、このお方のものであることを教えられるべきである。彼らはさまざまな種類の無我の奉仕において助けるよう訓練されるべきである。あなたの子供たちが妨害者になるのを許してはならない。あなたと共に、子供たちは身体的な重荷と同様に、靈的な重荷を分かち合うべきである。他の人々を助けることによって、彼らは自己自身の幸福や私心の無さを増すのである。2

神の民が聖化され、精錬され、聖なる民となり、光を自分の周囲にいるすべての人に伝達することが、神のご目的である。自分の生活の中で真理の実例となることにより、地上において讃となることが、このお方のご目的である。キリストの恵みは、これを実現するのに十分である。しかし、神の民は、自分たちが福音の諸原則を信じ、実行するときに初めて、このお方が自分たちを地上の讃れとすることができる覚えていなさい。彼らが神の奉仕において神

から与えられた能力を用いるときにのみ、彼らは教会がその上に立つようにと召されている約束の満ち満ちた力を享受するようになる。もしキリストを自分の救い主だと信じると公言する人々が、世の測りの低い標準にしか到達しないなら、教会は神が期待しておられる豊かな収穫を生むことができない。「量が足りない」ということが記録に記されるのである。…

弟子たちは民が自分たちのもとへ来るのを待ってはならない。彼らが民のところへ行くべきである。迷子の羊を羊飼いが探しに行くように、罪人を探しに行くのである。キリストは自分の働きの伝道地として、彼らの前に世界を開かれた。彼らは「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝え」るために出て行かなければならない（マルコ 16:15）。彼らが説かなければならぬのは、救い主について、このお方の無我の奉仕の生涯、恥辱的な死、このお方の比類なく変わることのない愛についてであった。このお方の御名が彼らの合言葉であり、一致の帯となるのであった。このお方の御名のうちに彼らは罪の要塞を征服するのであった。このお方の御名を信じる信仰が彼らをクリスチヤンとして特徴づけるのであった。

弟子たちにさらなる指示を与えて、キリストは次のように言われた、「ただ、聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。「見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまつていなさい」（使徒行伝 1:8、ルカ 24:49）。

自分たちの主人なるお方の声に従って、弟子たちは神のみ約束の成就を待って、エルサレムに集まっていた。ここで、彼らは十日を過ごし、深く心を吟味した。彼らはあらゆる相違を取り除き、クリスチヤンの交わりのうちに近く緊密に引き寄せられた。

十日後、主はご自分の聖靈の驚くべき注ぎによってご自分の約束を果たされた。

「突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっぱいに響きわたった。また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりひとりの

上にとどまった。すると、一同は聖靈に満たされ、御靈が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。」「そこで、彼の勧めの言葉を受けいたしたちは、バプテスマを受けたが、その日、仲間に加わったものが三千人ほどあった」（使徒行伝 2：2-4、41）。

「弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き、御言に伴うしをもって、その確かなことをお示しになった。」（マルコ 16：20）。弟子たちが直面した激しい反対にもかかわらず、短い期間に、御国の福音は人々が住むところへは全地に鳴り響いた。

弟子たちに与えられた任務はまたわたしたちにも与えられている。今日、当時と同じように、十字架につけられ、よみがえられた救い主が、世にいて神もなく希望もない人々の前に掲げられなければならない。戸別にこのお方の僕たちが救いのメッセージを宣布しなければならない。すべての国民、部族、国語、民族にキリストを通しての許しの知らせが伝えられなければならない。

おとなしい命のない言葉が伝えられるべきではない。そうではなく、はっきり断固とした魂を生き立てる言葉が語られなければならない。何百もの人々が自分たちの命のために逃れようと警告を待っている。ほんのわずかな場所ではなく、世界中に、憐れみの使者たちが必要とされている。すべての国から「ここに来て、…助けてください」という叫びが聞こえる。富める者も貧しい者も、高い階級も低い階級も光を求めている。男女がイエスのうちにあるがままの真理に飢えている彼らが上からの力を伴って福音が宣べられるのを聞く時、彼らは自分たちの前に祝宴が設けられていることを知り、次の召しに応えるのである。「さあ、おいでください。もう準備ができましたから」（ルカ 14：17）。言葉は、『全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。』という言葉はキリストに従う一人ひとりに語られている（マルコ 16：15）。キリストの命へと油を注がれたすべての者は自分の同胞の救いのための働きへと油を注がれたのである。キリストが失われた人々の救いのために感じられたのと同じ魂の切望が彼らのうちに表されるようになる。すべての人が同じ場所を占めることができるわけではないが、すべての人に場所と働きがある。神

の祝福が与えられてきたすべての人は、実際の奉仕によって応えるべきである。あらゆる賜物がこのお方の御國の進展のために用いられなければならない。

変わらない約束

キリストは弟子たちに委ねられた働きの実行のために十分な備えをなされた。そしてその成功の責任をご自身が引き受けられたのである。彼らがこのお方のみ言葉に従って、このお方につながって働いているかぎり、彼らは失敗することがない。すべての国々へ行けと、このお方はお命じになった。地上で人の住む最も遠いところへ行きなさい。しかし、そこにもわたしがいるのだということを知りなさい。信仰と確信をもって働きなさい。なぜなら、わたしがあなたがたを捨てる時は決して来ないのだから。

わたしたちには、キリストの永続的なご臨在という約束が与えられている。時の経過はこのお方の別れ際の約束に何の変化もたらしてはこなかった。このお方は今日、弟子たちと共におられたのが眞実であったように、わたしたちと共におられる。そして「世の終わりまで」わたしたちと共におられるのである。

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」と救い主がわたしたちに言われる。「彼らが神の子となることができるよう。わたしはこの働きにおいてあなたと共にいて、あなたを教え、導き、慰め、強める。あなたの自己否定と犠牲の働きにおいて、あなたに成功を与える。わたしは心を動かし、彼らに罪を自覚させ、彼らを闇から光へ不従順から義へと向きを変えさせる。わたしの光のうちに彼らは光を見るようになる。あなたはサタンの代理人たちの反対にあうであろう。しかし、わたしに信頼下さい。わたしは決してあなたを失望させない。

あなたは、キリストがご自分のためにあますことなく生きる人々に価値を認めるとは思わないだろうか。このお方が、愛されたヨハネをお訪ねになったように、ご自分のためにらい試練の立場にある人々を訪れるとは思わないだろうか？このお方はご自分の忠実な者たちを見出し、彼らと通信なり、彼らを励まし、強める。そして力にまさる神の御使たちは、真理を知らない人々に真理を語っている人

間の働き人に仕えるために、神によってつかわされる。

神の福音の牧師に、狭い道から迷い出てきた人々をキリストへと導く働きが与えられている。彼は自分の努力において賢く、熱心であるべきである。毎年の終わりには振り返って、自分の働きの結果、魂が救われたかどうかを調べるべきである。彼は幾人かをおそれをもって「火の中から引き出して」救わなければならない。「…肉に汚れた者に対しては、その下着さえも忌みきらいなさい。」「教にかなった信頼すべき言葉を守る人でなければならない」（ヨダ 23、テトス 1：9）。パウロがテモテに命じた言葉は今日、牧師たちにも語られている。「神のみまえと、…キリスト・イエスのみまえで、…命じる。御言を宣べ伝えなさい。時が良くて悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。」（テモテ第二 4：1、2）

しかし、神が罪人を救うために探す責任をおいておられるのは、み言葉を説く人々ばかりではない。このお方はすべての人にこの働きを与えておられる。わたしたちの心はキリストの愛で満たされ、こうしてわたしたちの感謝の言葉が他の人々の心をあたためるべきである。これはすべての人ができる働きであり、主はそれをご自身に捧げられたかのようにお受入れになる。このお方はそれを効果あり、人を神に和解させる恵みを熱心な働き人にお与えになる。

主がご自分の民を助けて、なされるべき真剣な働きがあることを悟らせてくださるように。彼らを助け、家庭に、教会に、世界に、彼らのなすべきキリストの働きがあることを覚えさせてくださるように。彼らは一人で働くままに取り残されではない。御使たちが彼らの助け手である。そしてキリストが彼らの助け手であられる。そうであれば、忠実に倦むことなく働くのではないか。もし弱り果てなければ、時がくるときに刈り取るようになる。3

自給伝道者

自給伝道者は多くの場所で成功することができる。使徒パウロが全世界にキリストの知識を広めたのも自給伝道者としてであった。彼はアジアとヨーロッパの大きな都市に毎日福音をのべ伝えながら、自分と共に労者をささえるため、職人として仕事をしていた。エペソの長老に対するパ

ウロの別れの言葉は、その働きぶりを物語り、全福音伝道者に尊い教訓を与えていた。

「彼らに言った。『わたしが、アジアの地に足を踏み入れた最初の日以来、いつもあなたがたとどんなふうに過ごしてきたか、よくご存じである。すなわち、…あなたがたの益になることは、公衆の前でも、また家々でも、すべてあますところなく話して聞かせ、また教え、…わたしは、人の金や銀や衣服をほしがったことはない。あなたがた自身が知っているとおり、わたしのこの両手は、自分の生活のためにも、また一緒にいた人たちのためにも、働いてきたのだ。わたしは、あなたがたもこのように働いて、弱い者を助けなければならないこと、また『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶しているべきことを、万事について教え示したのである』（使徒行伝 20：18－35）。

今日、多くの人がこれと同じ自己犠牲の精神にあふれているならば、同じように良い働きが可能である。ふたりまたはふたり以上で伝道の働きに出かけなさい。人々を訪問し、祈り、賛美し、教え、聖書の説明をし、病人に奉仕なさい。ある者は文書伝道者として自らをささえ、その他にもパウロのように何かの手仕事をし、あるいは別の働きをすることができる。自己の無力を認識し、神に謙そんにたよりつつ、その働きを進めてゆくとき、尊い経験が与えられる。主イエスは、こうした人の前にたってその先に行かれるため、貧富を問わず、人々から好意と助けを受けられるのである。

外国の医事伝道者となるために教育を受けた人々は、働くとしている場所に猶予することなくおもむき、その人々の間で働きを始め、働きながらそこの国語を学ぶようには獎励されなければならない。そうすれば、まもなく神のみ言葉の簡単な真理を教えることができるようになる。

恵みの使者は全世界に必要とされている。暗黒と誤謬の中にある地方や外国の伝道地に行き、同胞の困窮を知り、主のために働くようにクリスチヤンの家族が召されている。もし、こういう家族が世界の暗い場所、人々が靈的な暗黒の中に閉ざされている場所に住み、キリストの生命の光を輝かすならば、どんなに尊い働きができるのである。

ろう。

その働きは自己犠牲を必要とする。多くの人はいっさいの障害物が取り除かれるのを待ちつつ、自らできる仕事を放置している。そのため、多数の人が望みなく、神もなく死んでいく。ある者は商業上の利益のために、あるいは科学上の知識を得るために、人の居ない地方に思いきって行き、犠牲や困難に喜んで耐えるが、同じ人間のために福音を必要としている地方に喜んで自分の家族を連れて行く人は実に少ない。どんな場所に居ようと、また地位や立場にこだわりなく人に接近し、できるだけ彼らを助けるということが真の伝道である。こうした努力によって人の心をとらえることができ、滅びゆく者に接近する門戸を開くのである。

どんな働きをするときでも、キリストと自分が結ばれていること、あがないの大計画に参画していることを覚えなさい。あなたの生涯を通してキリストの愛がいやしと生命をささえる流れとなってあふれでるはずである。他の人をキリストの愛の社会に引き入れようと努力するときに、純潔な言葉、無我の奉仕、喜びにあふれた態度によってキリストの恵みの力をあかしなさい。この世の純潔な正しいキリストの代表となりなさい、そうすれば、世の人々は、その美しさの中にキリストを見るであろう。

悪習慣と思う点を攻撃することによって他人を改革しようとしてもあまり効果がない。こういう努力はよく有害無益に終る。キリストはサマリヤの婦人と話をされたとき、ヤコブの井戸をけなす代りに、さらに良いものをあげられた。「もしあなたが神の賜物のことを知り、また『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう」

(ヨハネ 4：10) キリストは与えようとする宝に話題を向け、婦人が持っているものに勝るものを見なさった。それは生ける水、すなわち福音の喜びと望みであった。

これはわたしたちが働くときに用いるべき方法の一例である。わたしたちは人が持っているものよりも良いものを提供しなければならない。それはすべての思いにまさるキリストの平安である。また神の品性の写し、神が人間に望んでおられる状態の表現である神のきよい律法を知らさなけ

ればならない。天の不滅の栄光は一時的な世の喜び、快樂よりもどれほどすぐれているかを教えなさい。救い主の中に見いだされる自由と休息を人々に告げなさい。「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがない」と、キリストは言われた (ヨハネ 4：14)。

「世の罪を取り除く神の小羊を見よ」と叫びながら、イエスを高く掲げなさい (ヨハネ 1：29)。キリストだけが心の渴望を満たし、魂に平安をお与えになることができる。

改革者は世界の人々の間で最も無我で親切で礼儀正しくなければならない。その生活には無我の行為の真の良いところが現われなければならない。礼儀に欠け、他人の無知やわがままに忍耐を失い、軽率な言葉を出し、あるいは不注意な行為をする働き人は人の心の戸を閉ざしてしまうため、決して彼らに接近できない。

露や静かな雨が枯れかかった植木に降り注ぐように、人を過失から救おうとするときは、優しい言葉を語るべきである。神の計画がまず心を動かす。わたしたちは、神が生活を変化させる力を与えになると信じながら、愛をもって真理を語るべきである。愛より語られた言葉を聖靈が心にお勧かせになるのである。

わたしたちは生れながらに自己中心で、自分の意見を通そうとする。しかし、キリストが教えんとお望みになっている教訓を学ぶとき、キリストの性質をもつ者となり、したがってキリストと同じ生涯を送る。キリストのりっぱな模範、泣く者と共に泣き、喜ぶ者と共に喜び、他人の気持ちに自らなられたところの、比類のない優しさが真心からキリストに従うすべての人の性格に深い感化を及ぼすに違いない。そういう人は親切な言葉、行動によって疲れた者の道を平易にしようと努力する。4

.....

引用：

1 国と指導者上巻 189、190

2 リビュー・アンド・ヘルド 1902年7月29日

3 教会への証 8巻 14-18.

4 ミニストリー・オブ・ヒーリング 126-130



安息日 2025 年 12 月 6 日

炉辺で

ミゲル・メンдоーサ オーストラリア

序論

「わたしたちの家庭はベテルとされ、わたしたちの心は宮とされなければならない。神の愛が大切にされるところはどこでも、平安があり、光と喜びがある。イエスは幸福な結婚、**幸福な炉辺**を見たいと望んでおられる。」¹

1800 年代のアメリカにおいて、特に近代的な暖房や電気がなかった時代、炉辺は家庭生活の中心的な存在でした。家族が暖かさ、光、そして繋がりを求めて集まる場所でした。ホワイト姉妹は「炉辺で」という表現を用いて、聴衆がすぐに親しみやすく意味深いと認識できるような場における、個人的な、関係的な、そして靈的な関わりを強調しています。そのため、彼女にとって「炉辺で」とは単なる物理的な場所ではなく、親密さ、信頼、そして影響を与える機会の象徴であり、神がその民に与えてくださった

光にふさわしく生き、それを世界中のすべての人々と分かち合うよう、家庭の人々を導くものだったと言えます。さて、このことを念頭に置き、今日のテーマについて考え、神の言葉と靈感の筆から得られる様々な教訓から学びたいと思います。

幼年時代に

わたしが子供の頃、故郷は一年のほとんどが寒い場所でしたが、炉辺自体がありませんでした。しかし、わたしたちの家は、礼拝の時間やその他の機会に、あたかも「炉辺」にいるかのように集まり、主を賛美し、主のみ言葉を学ぶ時間を過ごすことができる場所だったことを覚えていました。母は、わたしが今でも愛を持って覚えている重要な人生の教訓をわたしたちに与えてくれました。彼女は、箴言

22:6 にある指示に従いました。「子をその行くべき道に従って教えよ。そうすれば年老いても、それを離れることがない」。

わたし自身の経験から、これらの教訓が、主に従うか否かを決める決断を下す上で非常に重要だったことがはっきりと分かります。主のみ言葉と、そこに記された約束に感謝しています。

「幼年期と青年期に、品性は最も印象を受けやすい。自制の力はこのときに得られるべきである。炉辺や家族の中で、結果が永遠に続く感化力が働く。生来の才能よりも、人生の初期において形成された習慣が、人生の戦いにおいて勝利するか打ち負かされるかを決めるのである。」

2

アブラハムとサラ

わたしたちはアブラハム、彼の信仰、彼の欠点だけでなく、彼が家人々に対して行った働きについても聞いています。そこには彼のために働いた人々、彼の召使いも含まれていました。彼は神から次の約束を受けました。「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。**地のすべてのやからは、あなたによって祝福される**」（創世記 12:3）。なぜ地上のすべての家族が彼によって祝福されるのでしょうか？それは、彼がキリストとのつながりを通して、神の声に従う模範を示したからです。創世記 26:5 では次のように書かれています。「アブラハムがわたしの言葉にしたがってわたしのさとしと、いましめと、さだめと、おきてとを守ったからである」。それだけでなく、彼は次のように証しられた主の方法によって家族を教え指導しようとしました。「わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道を行わせるために彼を知ったのである。これは主がかつてアブラハムについて言った事を彼の上に臨ませるためである」（創世記 18:19）。しかし、この事業に携わったのは彼だけではなかった。妻のサラも一緒にいて、約束の地への旅の際、家の中の全員に次のことを厳密に指導したので、二人とも「炉辺で」素晴らしい仕事をしました。「これらの人々のなかには、働くことや自己の利益を求めることがよりも高尚な

考え方へ動かされたものが多くいた。ハランに滞在していた間に、アブラハムとサラは、ともに、他の人々を真の神の礼拝と奉仕に導いた。この人々は、アブラハムの家族につながり、彼とともに約束の国へ従ってきた。」³

アブラハムとサラが神の王国のために共に働いた経験から、父親と母親の両方が、主の道に従って家族を教育する上で重要な役割を果たしていることがはっきりと分かります。

親と家族

牧師の働きの中で、様々な機会に家族を訪問し、「炉辺」で彼らと共に礼拝にあずかりました。家族としてこの大切な時間を過ごすために、親が勤勉に努力されているのを見るのは、本当に素晴らしいことです。一緒に祈り、賛美し、聖書を読み、主を礼拝し、靈的な事柄について深く語り合うために、特別な時間を設けることは、本当に祝福です。こうして彼らは、敵の矢に対して、インマヌエルの血に染まった旗を掲げるという務めを果たしているのです。家族こそが最高の伝道地であることを忘れてはなりません。

「両親は自分の小さい子供たちに、イエスについて、また救いの計画について語るべきである。彼らはキリストの生涯と品性の貴重な教訓を子供たちの思いに織り込むべきである。こうして彼らがキリストに従う者となり、永遠の命の相続者となるためである。外国伝道について多く語られるが、家庭伝道がなおざりにされている。偉大な伝道地があなたの炉辺のすぐそばにある。そしてイスラエルの父親と母親のそれが大いに必要とされている。親が自分たちにおかれた責任の大きさを自覚し始めるなら、自分の家庭伝道の働きにとりかかり、そして自分の子供たちを天国のために訓練し始めるであろう。彼らは自分の小さい者たちに、規則に規則、教訓に教訓を与える。」⁴「キリストのためのわたしたちの働きは、家庭の中の家族から始めなければならない。青年たちの教育は、過去に与えられてきた者は違った種類ものであるべきである。彼らの幸福は彼らに与えられてきた働きよりもはるかに多くを要求する。これより重要な伝道地はない。教訓と模範によって、親は子供たちに、未信者たちのための働きを教えなければならな

い。子供たちは、老齢者や苦しんでいる人々に同情するように、また貧しい人や悩んでいる人々の苦しみを軽減するよう努めるように教育されるべきである。彼らは伝道の働きにおいて勤勉であるように教えられるべきである。そしてごく幼少期から、他人の善とキリストのみ事業の前進のために自己否定と犠牲をくり返し教えられ、こうして神と働く共労者となることができるようすべきである。

しかし、もし彼らがいつも他人のための本物の伝道の働きを学ぶべきだとしたら、彼らはまず家庭にいる人々、すなわち愛の奉仕を受ける生来の権利を持っている人々のために労することを学ばなければならない。すべての子供は家庭の奉仕で各自の分を担うよう訓練されるべきである。彼らは決して、家庭の重荷をになうために上げる自分の手や、用事のために走る自分の足を恥じるべきではない。こうして携わる間に、彼は怠慢や罪の道に行くことはない。だれかが担わなければならない家族の責任を、若い強い肩に引き受け、掲げることによって、父親や母親を愛する関心を示すことができたはずの時間を、子供や青年たちが、どれほど無駄にしてきたことであろう。彼らはまた健康改革と自分自身の体の管理の真の諸原則に根ざすべきである。」⁵

それでありながら、「多くの者は、家庭のこの分野において恥すべきほどにおざりにしてきた。そして神聖な資本と治療が提示された時こそ、この悪の状態は正されることができる。キリストに従うと公言する人々は、自分の子供たちをこのお方のために訓練するのをなおざりにするどんな言い訳ができるであろうか。」⁶

親愛なる両親の皆様、世の悪が絶えず増大している現状を目の当たりにしているため、家庭では青少年に特別な配慮が必要とされています。「不節制という悪の巨人が、わたしたちの国で忌むべき働きをしている。サタンには至る所に、彼の手中にある代理者がいて、わたしたちの青年たちを魅惑し、破滅させている。警告の声がわたしたち自身の炉辺で聞こえるように導かれないであろうか。**わたしたちは教えと模範によって、わたしたちの青年たちが高い所、高尚な目標、聖なる目的に到達することを願うよう導かないであろうか。**この働きは軽いものでも、小さい

ものでもない。そうではなく、報いのある働きである。正しい家庭訓練によって教えられてきた一人の青年は、自分の品性建設にしっかりと材木を持ち込む。そして彼の模範と生活によって、もし彼の力が正しく用いられるならば、彼はわたしたちの世において、他の人を義の道において上へ前へと導く力となるのである。**一人の魂の救いは多くの魂の救いとなる。」⁷**

福音の働き人

例えば、伝道という本には、主の使者が次のような訴えをしています。「キリストと共に働いているすべての人にわたしは言いたい。あなたが炉辺で人々に近づくことができるところはどこででも、自分の機会を生かしなさい。あなたの聖書をもって、彼らの間に偉大な真理を開いて見せなさい。」⁸ 主のために働く中で、わたしたちは人々が心地よく過ごせる場所、つまり彼らの家で彼らと出会い、その親密な空間を使って信仰を分かち合うように強く勧められています。炉辺という場は、形式ばった説教や公開討論とは対照的に、リラックスした個人的な交流を意味します。神のメッセージを広める際には、心と心をつなぐ方法が奨励されており、そのような方法は、実践的なキリスト教と個人的な奉仕をより広く強調しながら同列においています。

わたしたちの中で牧会や聖書の働きに属している人々に訴えられていることがもう一つあります。「牧会にいるわが兄弟がた、あなたの戸を誘惑にさらされている青年たちに対して開きなさい。個人的な努力によって、彼らに近づきなさい。悪がいたるところで彼らを招いている。彼らにより高い生活を生きる助けとなることに関心を持たせるよう努めなさい。**彼らを上からながめて手をこまねいてはならない。彼らをあなたの炉辺に連れてきなさい。あなたと家族の祭壇のまわりに加わるよう招きなさい。**天への道を明るく魅力的なものにするよう神のご要求がわたしたちに及んでいることを覚えていなさい。」⁹

「わたしはみ言葉と教理のうちに勞している牧師たちには目の前に大いなる働きがあることを見た。彼らには重い責任が負わされている。わたしは彼らが働くときには、十分心に近く来ていないことを見た。彼らの働きはあまりに全般的

すぎており、あまりに散在している。彼らの働きは自分たちの労している者たちのために集中しなければならない。彼らが講壇で説教をするとき、働きは始まつばかりである。彼らは自分が説いたことを生き、神のみ事業に非難をまねくことがないように、常に自らを見張っていなければならぬ。彼らは模範によってキリストの生涯を例証しなければならない。コリント第一 3:9『わたしたちは神の同労者である。』コリント第二 6:1『わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けではならない。』牧師たちの働きは、講壇を離れたときになし終えたのではない。彼はそのときに重荷を取り除いて、自分の思いを読み物や書き物で占めるべきではない、その時に実際必要ないかぎり。かえって自分の公の働きに続いて、個人的な努力—機会がある時にはいつでも魂のために個人的に労すること—をし、炉辺で会話をしたり、キリストに代って神と和解するように嘆願したり、切望したりすべきである。わたしたちの個々での働きはまもなく終わる、そして『すべての人は自分自身の働きに従って、自分の報いを受ける』のである。』10

「顕著な成功を伴うのは、この炉辺での努力、家庭での働きである。牧会にいる兄弟がたよ、それを試してみなさい。わたしたちの牧師のある者は、この種の働きを好まない。彼らはそれを遠ざける。そのような個人的な努力には十字架がついてくる。しかし、もし人々が人気のない真理を奉じるとしたら、彼らにこの働きがなされなければならない。このやみの中にいる魂との密接な接触において、わたしたちの光がもっと効果的に直接闇の上を照らすことができる。そして彼らはわたしたちのふるまい、わたしたちの会話、わたしたちの厳肅ではあるが、快活で礼儀正しい立ち居ふるまいによって、キリストの恵みがわたしたちと共にあり、天の平和が彼らの家庭の中に持ち込まれることを認めるであろう。彼らはそのような祝福された結果を伴う真理に魅了されるのである。』11

以下の引用は、1883年11月9日、ミシガン州バトルクリークで開催された総会の朝会において、集まった牧師たちに向けた語られた言葉の一部です。「わたしたちを魂を救う働きにおいて助けるご自分の僕とすることによって、

神はなんという神聖な信任をわたしたちに委ねて下さったことであろう。このお方はわたしたちに偉大な真理、最も厳肅で世のための試金石となるメッセージを委ねてこられた。わたしたちの義務は単に説教することではなく、奉仕すること、心に近く来ること、炉辺で個人的な努力をすることである。わたしたちは真理の尊い光をもっとも快い方法で、魂を勝ち取るように最もよく計画された方法で提示できるように、自分に委ねられたタラントを技能や知恵と共に用いるべきである。』12

献身したクリスチヤン

主イエスはご自分の民にただちに従うべき任務をお与えになりました。マタイ 28:19, 20 には次のようにあります。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。』アーメン。これらの言葉を聞いて行動するのが、わたしたちの特権です。「牧師が真理の種をまくという働きの最大の部分を担うままに任されるのは、神のご目的ではない。福音の働きに召されていない人々は、自分のいくつかの能力に従って主人のために働くよう奨励されるべきである。今何もしていない何百人の男女は、受け入れられる奉仕をなすことができる。真理を自分の近隣や友人たちの家庭に持ち込むことによって、彼らは主人のために大いなる仕事ができるはずである。神は人を偏り見られない。このお方は、心のうちに真理の愛を持ち、謙遜で献身したクリスチヤンをお用いになる。』13 そのような人々は、戸別の働きをなすことによって、このお方のための奉仕に携わりなさい。炉辺に座って、そのような人は—もし謙遜で、慎重で、信心深いなら—牧師がなしうるよりもっと家族の本当の必要に応じることができる。』13 この重要な働きに携わるすべての人にとって、炉辺は福音や家族や信仰、そして他人への働きかけについての教訓を分かち合う自然な舞台となります。「戸ごとに、愛と純粋な気持ちで真理を伝えることは、キリストが弟子たちを初めて伝道旅行に送り出された時、彼らにお与えになった教

訓に一致する。賛美の歌により、けんそんで心からの祈りにより多くの人々の心を得る。働き人であられるお方が人々を改心させるためにご臨在される。『わたしは、いつもあなたがたと共にいる』とは、キリストのみ約束である。そのような助け手が共にいると保証されているのであるから、われわれは、信仰と希望と勇気を持って働くことができる。』

14

そうであれば、あなたは他の人々を十字架の下へ導くことにおいてへりくだつた器として神に用いていただきたいですか？

「光が伝達され得る最も効果的な方法の一つは、個人的な努力によるものである。家庭のだんらんで、隣人の家の炉辺で、病人の枕べで、静かに聖書を読み、イエスと真理のためにみ言葉を語ることができる。こうして、芽を出し、実を結ぶまで成長する尊い種をまくことができる。』

神の訴え

今日学んだように、「炉辺」で行うべき大切な働きがあります。それは自分自身のためであれ、だれかのためであれ重要な働きです。教会として、靈的な働きは教会の中だけにとどまるものではなく、日常の個人的なひとときこそ最も効果的であることを理解する必要があります。この理解において、炉辺は堅苦しい形式的な場から離れ、人間関係を築き、信仰と真理の種を蒔くための最適な場所である。改革運動の家族の皆様、このメッセージを受け取り、このテーマを締めくるにあたり、主がわたしたちの心と心を開いてくださるよう、そして主があなたと私に向けられた次の呼びかけを家に持ち帰ってくださるよう、祈り求めましょう。

「主はわたしたちに託された才能をどのように用いたかを問われる。主は、すべての魂が神と共に働く共労者として喜んで仕えることができるようるために、自らの血と自己否定、犠牲、苦難という代価を払ってくださった。もしすべての人が、託された才能という賜物を賢明に用いるという神への責任を自覚していれば、イエス・キリストを通して、なんという成果が神にもたらされことであろう！一つの才能は、使うことによって増えることが可能であり、実際に増えるのである。最も小さいと思われる賜物、最もつつましい

と思われている奉仕でさえ、より大きな才能を持つ者が届かない人々の思いに届き、心に感化を与えることができる。

今、今、今こそ働くに最も適した時である。個人訪問は大きな価値がある。イエス・キリストへの愛と人々の魂への愛のうちに、真理はすべての家庭に伝えられ、あなたが近づくことのできるすべての炉辺で語られるべきである。…聖靈が働き手であることを心に留める必要がある。神のために働く人間は一人ではない…

忍耐、優しさ、思いやり、祈り、そして愛をもって働くことは、説教以上のことをなす。主イエスは、罪ののろいから世界を救うために命を捧げることで、わたしたちの目がまだ見ていないほど偉大なことを意図しておられた。聖靈は、用いることの出来る器を待っておられる。…サタンが常に勝利するわけではない。神の御靈は、それを受け入れる器が整うとすぐに、教会に注がれる。』

主がわたしたちを豊かに祝福し、炉辺でこの働きをなすよう助けてくださいますように。アーメン！

.....

引用：

- 1 信仰によってわたしは生きる 255. [強調付加]
- 2 チャイルド・ガイダンス 202.
- 3 人類のあけばの上巻 125[強調追加]
- 4 リビー・アンド・ヘラルド 1891年4月21日
- 5 教会への証 6巻 429
- 6 同上 430
- 7 リビー・アンド・ヘラルド 1888年7月10日 [強調付加]
- 8 伝道 436
- 9 福音宣伝者 212 [強調付加]
- 10 教会への証 1巻 432
- 11 原稿リース 7巻 37
- 12 リビー・アンド・ヘラルド 1884年4月15日
- 13 福祉伝道 109 [強調付加]
- 14 クリスチヤンの奉仕 163
- 15 同上 169
- 16 彼を知るために 330



SUNDAY, DECEMBER 7, 2025

“GIVE YE THEM TO EAT”

BY OZIEL FERNANDEZ - BRAZIL

A CALL TO SERVICE AND
CHRISTIAN COMPASSION

日曜日 2025年12月7日

「あなたがたの手で食物をやりなさい」

オジエル・フェルナンデス著 ブラジル

奉仕とクリスチャンの同情への召し

イエスが語った「あなたがたの手で食物をやりなさい」という言葉は、他者への思いやりと責任への呼びかけとして深く心に響きます。マタイによる福音書 14 章 16 節に記されたこの言葉は、パンと魚の最初の増加という有名な物語に深く根ざしています。しかし、この聖句は聖書の中で最も象徴的な奇跡の一つを語るだけでなく、思いやり、寛大さ、そしてクリスチャン奉仕についての根本的な教訓も含んでいます。これらは全て、飢餓などの大きな課題に直面する世界において、今日の教会に実践的な行動を起こすよう促します。

今日の飢餓

今日、飢餓は世界的に深刻な問題となっています。「国連の報告書によると、SOFI 2024 によると、2023 年だけでも世界中で約 7 億 3,300 万人が飢餓に苦しむことになる」とされています。¹ これは、世界の 11 人に 1 人が飢餓に苦しんでいる状況に相当し、社会的不平等、経済危機、武力紛争などの要因により、この数は増加傾向にあります。この現実は、世界の食料生産量とは大きく対照をしており、問題は資源不足ではなく、不十分な分配と行動不足にあることを示しています。

イエスは「あなたがたの手で食物をやりなさい」と言われたとき、弟子たちに不可能に思える状況に立ち向かうよう要求されました。それは、今日、何百万もの飢えた人々に食事を与えるという課題がいかに困難に思えるかと同じです。しかし、その時と同じように、キリストのメッセージは、苦しむ人々の身体的および靈的な必要を満たすという、キリストに従う者たちに共通した責任を指し示しています。

聖書での文脈

パンが増えるという奇跡は、バプテスマのヨハネの死の知らせの直後にありました。おそらく、弟子たちがヨハネの死に疲れ果てて悲しんでいたため、イエスが気分転換のため弟子たちとともに人のいない場所に退かれたからかもしれません。「イエスはこのことを聞くと、舟に乗ってそこを去り、自分ひとりで寂しい所へ行かれた」（マタイ 14：13）。

キリストの休息への招きは、弟子たちへの配慮の表れです。しかし、群衆はイエスがどこへ行ったのかを発見し、歩いてイエスについていたので、望んでいた休息はすぐに中断されました。「多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた」（マルコ 6：33）。

「過越節が近づいていたので、エルサレムに行く途中の巡礼者たちの団体が、イエスを見るために遠近から集まつた。人々の数は増し加わって、ついに女子供のほかに五千人が集まつた。キリストが岸にお着きになる前に、群衆がイエスを待っていた。」²

群衆への同情

愛に満ちた救い主は、わたしたちの必要性を満たすことを決してためらわれることはありません。彼は群衆を憐れみ、彼らを歓迎し、彼らの病気を癒されます。「イエスは舟から上がって、大せいの群衆をごらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった」（マタイ 14：14）。

新約聖書において、「あわれまれた」とは、苦しむ人々に対する最高度の同情を表しており、通常はイエス・キリストの行為に関連して用いられています（マタイ 15:32、20:34、マルコ 1:41、ルカ 7:13 参照）。イエスは、人の必要をすべて満たさずに去らせることは決してありません。休息中に妨げられても、自分の静かな場所を離れて、イエスは彼らのために 3 つのことを対応されました。

1. イエスは群衆に神の王国について教え、こうして人々の心の必要を満たした。
2. イエスは病人を癒し、こうして彼らの肉体的な必要を満たした。
3. イエスは天からのパンの象徴として、群衆全員にパンを与えた（ヨハネ 6:22-40）。

このようにして、イエスは彼らの精神的、肉体的、そし

て靈的な必要を満たされました。

弟子たちの心配

その日は忙しく活動的な一日でした。イエスは群衆の中で教え、病人を癒されましたが、弟子たちは群衆にどうやって食事を与えたらよいか心配していました。自分たちがどこにいるのかに気づいた弟子たちはイエスに近づき、心配していることを伝え、周りの村々に食べ物を探しに行くよう人々を帰すよう提案しました。

「はや時もおそくなつたので、弟子たちはイエスのもとにつき言つた、『ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。みんなを解散させ、めいめいで何か食べる物を買ひに、まわりの部落や村々へ行かせてください』」（マルコ6：35、36）。

弟子たちは群衆にどうやって食べ物を与えるかが分かりませんでした。予算が足りず、群衆をただ解散させる以外に解決策はありませんでした。何もかもが好ましくない状況でした。場所はへんぴで、時間は遅く、群衆は多く、お金も十分ではありませんでした。弟子たちは不足を見て、自分たちにないものを強調しました。

キリストのご命令

弟子たちの提案に注意深く耳を傾け、「するとイエスは言つた、『彼らが出かけて行くには及ばない。あなたがたの手で食物をやりなさい』」（マタイ14：16）。キリストの命令は予期せぬものであり、動揺させ、弟子たちに次の3つの課題を与えました。

1. 群衆は大きく、女性と子供を除いて5,000人いた。
2. 彼らは街から遠く離れた砂漠にて、食べ物を買う場所がなかった。
3. 彼らには十分なお金がなかった。

弟子たちは、物流上の問題、資源の不足、そして空腹の群衆によって、明らかに行き詰まりに陥っていました。

それでも彼らは、自分たちが持っていたわずかな一口をキリストの手に渡すことに同意しました、なぜなら「イエスは言つた、『それをここに持ってきてなさい』」（マタイ14：18）。その一口は、奇跡的に増加し、全ての人が満たされました。この奇跡は、限られた資源であっても、喜んで奉仕する人々を通して神は偉大なことを成し遂げることができます。

イエスが弟子たちに人々に食事を与えるよう命じられたとき、イエスは預言者イザヤを通して語られた、教会が弱い立場の人々を助ける責任という原則を思い起こさせられました。キリストは預言者イザヤを通して、「また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これを着せ、」とお命じになりました（イザヤ58:17）。

主はわたしたちに明確に次のように命じておられます。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」（マルコ16：15）。

「しかしわれわれは、必要が大きく、われわれの手にある資金が少ないので見ると、どんなにしばしば気持が沈み、信仰がなくなることだろう。アンデレが大麦のパン五つ小さな魚二匹を見たときのように、われわれは『こんなに大せいの人では、それが何になりましょう』と叫ぶ（ヨハネ6：9）。自分の持っているものを全部さげたくないのと、他人のために費したり費されたりするのを恐れるために、われわれはしばしばちゅうちょする。しかしイエスは、『あなたがたの手で食物をやりなさい』とわれわれにお命じになった（マルコ6：37）。キリストの命令は約束である。その約束の背後には、海辺で群衆を養われたのと同じ力がある。」3

教会の召し

「あなたがたの手で食物をやりなさい」という表現は、単に物理的な食物を提供するという状況を超えていきます。キリストの体である教会が、人々の靈的、感情的、そして物質的な必要を満たすよう呼びかけています。イエスは弟子たちが群衆を世話する責任を逃れることをお許しになりました。そして、この同じ原則は、今日の教会においてもわたしたち自身の指針となる必要があります。

「キリストが五千人を養われた奇跡の中には、収穫を生産させる神の力の働きが表わされている。イエスは自然界のベールをとり去って、われわれの幸福のためにたえず働いている創造力を明らかにされている。パンを幾倍にもふやされたキリストは、地にまかれた種の繁殖に毎日奇跡を働いておられるのである。キリストが、この世の田畠の収穫から幾千万の人間をいつも養っておいでになるのは一つの奇跡である。人間は、穀物を生産しパンを作るためにキリストとの協力を求められている。そのために人間は、神の力を見出してしまうのである。神の力の働きは、自然の原因や人間の力に帰せられ、天來の賜物は利己的な用途に悪用されて、祝福となるよりは災いとなる場合が多い。神はこうしたすべてのことを変えようとしておられるのである。神は、われわれのにぶい感覚が呼びさまされて神のあわれみ深い恩恵をみとめ、神の賜物が、そのみこころの通りにわれわれの祝福となるように望んでおられるのである。

種に生命をあたえるのは神のみ言葉で、そこに神の生命がわけあたえられるのである。われわれは穀物を食べることによって、その生命にあずかる者となる。神はわれわれがこのことを認めるように望んでおられるのである。神は、われわれが、日ごとのかてを受けることにさえも、そこに神の力が働いていることをみとめ、ますます神と親密な交わりにはいるように望んでおられる。

自然界における神の法則によって、原因に結果が伴うことは不变の真理である。収穫は、種まきをあかしする。そこにみせかけは通用しない。人は世間を欺いて、自分では手をくだしたことのない奉仕について賞賛と報酬をうけることができるかもしれない。しかし、自然界にはあざむきというものはない。」⁴

「収穫において種は幾倍にもふえる。一粒の麦でも、幾度もまいているうちには、ふえつづけてついには全地を黄金の穂波でおおうであろう。ただひとりの一生、たった一つの行為でさえも、その影響はこれと同じようにひろがるのである。」⁵

パンと魚が増えた奇跡についてさらに述べられているのを、次の証の書に読むことができます。「飢えた群衆の一時的な必要を満たされたキリストの行為の中に、ご自分

のすべての働き人に対するキリストの深い教訓が含まれている。キリストは天父からお受けになった。彼は弟子たちにお与えになった。弟子たちは群衆に与え、人々は互に与え合った。同じように、キリストにつながっている者はみな、キリストから天の食物であるいのちのパンを受け、それを他人に与えるのである。」⁶

イエスの言われる飢えとは、もっと広い意味で理解することができます。わたしたちの周りには、正義、平和、愛、希望に飢えている人がたくさんいます。教会には、危機にある世界に靈的および感情的な栄養の源となるという使命があります。使徒ヤコブは、具体的な行動を伴う信仰の重要性を強調することによってこの真理を強調しています。「ある兄弟または姉妹が裸でいて、その日の食物にもこと欠いている場合、あなたがたのうち、だれかが、『安らかに行きなさい。暖まって、食べ飽きなさい』と言うだけで、そのからだに必要なものを何ひとつ与えなかつたとしたら、なんの役に立つか」（ヤコブ 2：15、16）。同様にヨハネは第一の手紙の中で次のように訊ねています。「世の富を持っているながら、兄弟が困っているのを見て、あわれみの心を閉じる者には、どうして神の愛が、彼のうちにあろうか」（ヨハネ第一 3：17）。

今日の世界は、「飢えた群衆」、すなわち意味、帰属（きぞく）意識、そして希望を求めるのに飢えた人々で溢れています。教会は、命の糧を分かち合い、キリストの変革をもたらすメッセージを伝える、寛大な共同体となるよう召されています。

増やすことにおけるわたしたちの役割

飢餓をはじめとする地球規模の問題の規模の大きさに、わたしたちはたやすく圧倒されてしまいがちです。限られた資源で、これほど大きな問題にどう対処できるでしょうか？パンを増やした物語は、キリストの御手によって、たとえわずかなものでも、多くの人々のために増やすことができるということを思い出させてくれます。

「主から受けたものを、困っている人々に分け与える人々には、物質的にも靈的にも祝福が伴う。イエスは、疲れ果て空腹の五千人の群衆に食事を与えるという奇

跡を行われた。イエスは人々が快適に過ごせる場所を選び、座るように命じられた。それから、五つのパンと二匹の小さな魚をとった。そのわずかな食料で、五千人の飢えた男たち、さらに女や子供たちを満たすことなど不可能だと、多くの人が口にしただろう。しかし、**イエスは感謝をささげ、弟子たちの手に食べ物を託して配らせた。彼らは群衆に与え、彼らの手の中で食べ物は増えていった。**群衆が満腹になると、弟子たちも座り、天から与えられた糧をキリストと共に食べた。これはキリストに従うすべての人にとって貴重な教訓である。」⁷

かつてのイエスの弟子たちと同じように、神はわたしたちを神の祝福を伝える手段として用いたいと願っておられます。「弟子たちは、キリストと民との間の伝達のチャンネルであった。このことは今日のキリストの弟子たちにとって大きな励ましでなければならない。キリストは大中心、すなわちすべての力のみなもとである。キリストの弟子たちは、キリストから補給を受けるのである。どんなに賢明な者でも、どんなに靈的な心を持った者でも、受けるときにのみ与えることができる。彼らは自分自身では魂の必要を何一つ満たすことができない。われわれは、キリストから受けるものだけを与えることができる。われわれはまた、他人に与えるときにのみ受けることができる。われわれは、たえず与えるときに、たえず受ける。そして多く与えれば与えるほどますます多く受ける。こうしてわれわれは、たえず信じ、頼り、受け、与えることができるのである。」⁸

世界中のキリスト教の団体、伝道者、ボランティアたちは、最も弱い立場にある人々の必要に応えるために人生を捧げることで、すでにこの現実を生きています。飢えた人々への食糧支援プログラムから、教育、医療、基本的なケアを提供するプロジェクトまで、これらの取り組みはキリストの愛の実践を反映しています。わたしたちの目には小さなことに思えることも、神の御手の中では偉大なわざの始まりとなることができます。わたしたちは豊かさを得るまで待つ必要はありません。今日わたしたちが持っているものは、キリストの御手の中で不可能を可能にする道具となることができます。

行動への召し

キリストが弟子たちに求めた言葉は、今もなお響き続けています。キリストは、特に世界が深刻な困窮に見舞われている今、わたしたちを世界における贍いのわざに携わるよう招いておられます。飢餓は、肉体的なものであれ、精神的なものであれ、今もなお数十億人の人々を苦しめており、クリスチャンはこうした必要に対する神の答えとなるよう召されています。

この行動への呼びかけは、小さな行為から始まります。励ましの言葉、困っている人への寄付、あるいは教会内に社会支援センターを設立し、地域社会の物質的、精神的な必要を満たすことなどです。世界の飢餓の緊急性を無視することはできないが、キリストの弟子として、わたしたちは思いやりと寛大さをもって行動するよう求められています。

「イエスはぜいたくを求める人々の欲望を満たして、ご自分に人々をひきつけようとはなさらなかった。興奮の長い一日がすぎた後に、疲労し飢えた大群衆にとって単純な食物は、生活上の一般必要を満たしてくださる神のみ力とそのやさしい保護の確証であった。救い主は彼に従う者にこの世でぜいたくな生活をさせてやるとは約束なさらなかつた。かえって貧困にかこまれるかも知れないである。しかしその必要はみたすと、キリストのみ言葉は保証している。また、この世のものよりもよい彼ご自身の臨在によって、永続性のあるなぐさめを約束していくくださるのである。

群衆が養われた後、なおたくさんのおかげで残っていた。イエスは弟子に『すこしでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい』と命じられたが、これらのお言葉はかごに食物を入れること以上に意義を持っていた。その教訓は二重である。何一つむだにしてはならないのである。われわれはこの世の利点をのがしてはならない。人間に益となるようなことは何でもおろそかにしてはならないのである。世の飢えた人々の必要を満たすようなものは、すべて集めなさい。また同様な注意深さで、わたしたちは、心の要求を満たすために天からの食物を大切にしなければならない。わたしたちは神のすべてのみ言葉によって生きなければならないのである。神が仰せになった事は何一つ失って

はならない。わたしたちの永遠の救いに関する一つのみ言葉でも、おろそかにすべきではない。一言もむなしく地に落ちてはならないのである。」9

「弟子たちはあるだけのものをイエスの所に持ってきたが、キリストは、それを食べなさいとは仰せにならなかつた。人々に供するように弟子たちにお命じになったのである。食物はキリストのみ手の中で増し加わり、キリストに差し出された弟子たちの手は必ず満たされた。わずかな食物がすべての人に十分に足りたのである。群衆に食を与えて後、神の備えてくださったとうとい食物を弟子たちはイエスと共にいただいた。

我々は貧しい人や無知な苦しむ人々を見ては幾度落胆するだろう。そして自分たちの弱い力と乏しい資源がこのひどい欠乏を満たすのに何になろうと思うのである。もっと才能のある人が働きを指導するのを待とうか。あるいはまだある組織によってこの働きがなされるのを待とうか。しかしキリストは彼らに『食物をやりなさい』と仰せになる。物資、時間、才能を使用なさい。あなたの大麦のパンをイエスの所に持つて行きなさい。

あなたの資源は幾千人の人を養うに足りなくても、ひとりを養うに足りるかも知れない。そしてキリストのみ手の中で、それは多くの人々を養うかも分らないのである。弟子たちのように自分にあるものをささげなさい。キリストは、その贈り物を増し加えてくださる。率直に、単純に信頼するとき、彼はこれにむくいられるのである。そして乏しく見えた食物も豊かなご馳走となる。」10

結論

「あなたがたの手で食物をやりなさい」というみ言葉は

慈善活動への単なる勧めではなく、責任への呼びかけであります。イエスは、変化をもたらすためにわたしたちが多くを持つ必要はないことを示されました。わたしたちは自分が持っているものを神の御手に渡すだけでよいのです。パンと魚が増えたのと同じように、キリストはわたしたちの努力と資源を増やして、わたしたちの周りの飢えた群衆に靈的にも肉体的にも食べ物を与えることができます。

何百万人もの人々が飢餓に苦しんでいる世界において、教会は、保護と希望を非常に必要としている社会において、キリストの愛の反映として、思いやりをもってこの呼びかけに応え続けなければなりません。

.....

引用：

- 1 <https://www.wfp.org/publications/state-food-security-and-nutrition-world-sofi-report>
- 2 各時代の希望中巻 103
- 3 同上 111、112
- 4 教育 114、115
- 5 同上 116[強調追加]
- 6 各時代の希望中巻 112
- 7 教会への証 6巻 [強調付加]
- 8 各時代の希望中巻 112、113
- 9 ミニストリー・オブ・ヒーリング 25, 26
- 10 同上 27, 28



水曜日 2025年12月10日

道やかきねのあたりに出て行って

ダニエル・バルバッカ著 米国

イエスが興味深いたとえを語られました。「ある人が盛大な晩餐会を催して、大ぜいの人を招いた。晩餐の時刻になつたので、招いておいた人たちのもとに僕を送つて、『さあ、おいでください。もう準備ができましたから』と言わせた。ところが、みんな一様に断りはじめた。最初の人は、『わたしは土地を買いましたので、行って見なければなりません。どうぞ、おゆるしください』と言つた。もうひとりの人は、『わたしは妻をめどりましたので、参ることができません』と言つた。僕は帰ってきて、以上の事を主人に報告した。すると家の主人はおこつて僕に言った、『いますぐに、町の大通りや小道へ行って、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、

足の悪い人などを、ここへ連れてきなさい』。僕は言った、『ご主人様、仰せのとおりにいたしましたが、まだ席がござります』。主人が僕に言った、『道やかきねのあたりに出て行って、この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにひっぱつてきなさい』。」（ルカ14：16-23）。

この晩餐に招かれた最初のグループはだれだったでしょうか。これは何を意味するでしょうか。

「キリストは大宴会のたとえによって、福音が提供する祝福を例示された。ごちそうとはキリストご自身にはかならない。彼は天から下ってきたパンである。彼から救いの川が流れであるのである。主の使者たちは救い主の来臨をユダ

ヤ人にのべ伝えた。彼らは『世の罪を取り除く神の小羊』としてキリストを示した（ヨハネ1：29）。神はお備えになった宴会において、天が与え得る最大のたまもの—見積もることもできないたまものを彼らに提供された。神の愛は大宴会をもうけ、くちない富を供給された。キリストは、『それを（天から下ってきた生きたパンを）食べる者はいつまでも生きるであろう』と仰せになった（ヨハネ6：51）。」1 この引用から、わたしたちは二つの美しい点を理解します。

招待状は最初にユダヤ人に与えられましたが、彼らは神の選民として今日のクリスチヤンを表しています。「もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである」（ガラテヤ3：29）。

神の僕また世界への使者として、わたしたちは命のパン、つまりキリストご自身という無償の賜物を受け取るよう世界に招待状を送る特権が与えられています。「イエスは彼らに言われた、『わたしが命のパンである』。」（ヨハネ6：35）。

ユダヤ国家は自分たちの靈的な状態のゆえに招待を拒みました。「自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もない」と考えたからです（ヨハネ黙示録3：17）。そこで、招待は、二番目の階級の人々へ与えられました。そこで主人は僕たちにルカ14：21にあるように命じます。「いさゞに、町の大通りや小道へ行って、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の悪い人などを、ここへ連れてきなさい」。これは文字通りの意味というよりは、靈的な意味で語られています。もし今日、神の民を代表する人々が靈的に豊かな人々であるならば、大通りや小道にいる人々は靈的に貧しく、足が不自由で、目が見えない人々であるに違いありません。

「貧しいものや、盲人につかわされたしもべは、主人に報告した。『ご主人様、仰せのとおりにいたしましたが、まだ席がございます』。主人が僕に言った、『道やかきねのあたりに出て行って、この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにひっぱってきなさい』。ここでキリストはユダヤ教の

境界をこえて、世界の大通り、小道に福音の働きがなさることを指摘された。」2

たとえの中で、大通りと垣根（または小道）として言及されている最後の二つのグループについてはどうでしょうか。これらのグループは、靈感によって、世の人々、つまりわたしたちの信仰の外にいる人々として言及されています。

最近、いくつかの教会で行われた伝道者訓練集会で、わたしは信仰を持たない人々への働きかけにおけるわたしたちの努力、あるいはその不足について強調しました。ある授業の冒頭で、生徒たちに周りを見回し、過去5年以内に教会外から迎え入れられた新しい信者が何人いるか確認するように言いました。その大勢のグループの中で、「世」から最近信仰を得たのはわずか1、2人でした。これはわたしたち一人ひとりにとって重要な問いを投げかけます。キリストの僕として、わたしたちは積極的に人々に働きかけ、イエスご自身が命のパンであるこの大宴会へと招いているでしょうか。

「この働きをどう行えばいいのだろうか？具体的に、一体だれに伝えればいいのだろうか？」と自問するかもしれません。異なる背景を持つ人々、例えば高学歴の人々、裕福な人々、あるいは伝統的なキリスト教の教えとは異なる信仰を持つ人々に伝えることに不安を感じるかもしれません。個人的な選択、罪深い生活スタイル、あるいは文化的な視点のために、宗教共同体から距離を感じている人もいるかもしれません。そのような人々が靈的な事柄に興味を持つのか、教会と関わることに前向きなのか、しばしばためらいが生まれます。

多くの人は、そのような人々を教会に連れてくることさえ、おそらく正しくも適切でもないだろうと考えるかもしれません。外への伝道を考えるときに、こうした疑問が起こるかもしれません。こうした疑問を和らげるために、福音の宴に最初に招かれた人々、つまり「大通り」にいる人々について、靈感の書が何と語っているかを熟考することには価値があります。

大通り

「宴会への招待ははじめにユダヤ人に与えられた。彼ら

は人々の間で教師、指導者として立つように召された人々であった…福音の召しが異邦人に送られるときにも、その伝えられる方法は同じである。使命はまず『大通りに』与えられる。つまり世の働きに活発に従事している人々、民の教師や指導者に与えられる。

主の使者はこのことを心に留めておくべきである。群れの牧者たち、神によって立てられた教師たちはその招待に応じなければならない。社会の上層階級に属する者をやさしい愛情と兄弟に対するような心づかいをもって探し出すべきである。実業家、責任ある高い地位にいる人々、大きな発明の才や、科学的知識をもつ人々、天才とよばれている人びと、現代に対する特殊の真理をまだ知らない福音の教師たち—これらの人々がまず最初に招待を聞くべきである。このような人々をまず招待しなければならない。

金持ちのためになすべき働きがある。…金持ちには神を恐れつつ愛をもって働きかけなければならない。多くの場合、金持ちは自分の富にたより、自分の危険を感じない。彼の心の目は、朽ちない価値をもつものにひきつけられる必要がある…。

教育、富、名声をもった高い地位にある人々は、自分の救いの重要さについて語りかけられることはほとんどない。多くのキリスト教の働き人たちは、これらの階級に近づくことをためらっている。しかしそのようなことではいけない。」3

父の親友の一人がこの階級に属していました。悲しいことに、父が亡くなった当時、わたしはまだ「世の者」でした。しかし、信仰を得て、聖書の働き人になった後、父の友人に連絡を取らなければならないと感じました。彼はとても親しみやすい人だったので、よく彼の家を訪ねて夕食を共にしました。友情が深まるにつれ、彼は不可知論者（人間は神の存在を証明することも反証することもできないと唱える人）だったため、福音を伝える方法を主に願い求めました。彼の家を訪ねると、趣味で陶芸をしていた彼は、ろくろと窯を見せてくれた。何度か一緒に陶芸をしないかと誘われたが、わたしは興味がないのでいつも断っていました。その間、彼と会い続ける中で、福音を伝える方法を見つけられるよう祈っていました。ある日、祈っていると、前に進んで一緒に陶芸をしようという彼の申し出を受け入れるべ

きだという強い印象が与えられました。これが福音を伝えるためのきっかけになるかもしれないと思づいたのです。

その紳士に陶芸を学びたいと伝えると、彼はとても喜んでくれました。初めてそこへ一緒に行った時、わたしたちは素晴らしい経験をしました。信じたかどうかは別として、キリストが陶芸家で、わたしたちが粘土であるという靈的な教えをいくつか分かち合うことができました。その後、わたしはここかしこに福音の種を蒔くことができ、わたしたちの友情は深りました。キリストが魂を勝ち取る方法について、もっと理解するようになりました。

「人の心を動かすにはキリストの方法だけが真の成功をもたらす。人間と交際しておられた間、救い主はその人たちの利益を計られ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして『わたしについてきなさい』とご命令になった。」4

ここには人間関係を深め、相手の信頼を得ることが含まれています。そして、より親密な友情が育まれるにつれて、福音をより良く伝えることができるようになります。10年経った今でも、この男性と私は親しい友人です。そして、いつか彼が天国に行けると信じながら、真理の種を蒔き続けています。

わたしたちは靈感によって、キリストが特にこの階級の人々に多くの努力を払われたことを教えられています。そしてわたしたちはまた、キリストがいかにして彼らに手を差し伸べられたのかと示されています。「イエスは裕福な教育のあるパリサイ人や、ユダヤの貴族や、ローマの総督にも交際をお求めになった。また、彼らの招待をうけ、宴会にも出席なさりなどして、人々の興味と職業を親しご存じになると共に彼らに近づいて、不滅の富をお示しになった。」5

小道

わたしたちはまた「小道」や「垣根」にいる人々に手を差し伸べるようにと命じられています。モーセの時代から、聖書は次のように述べています。「他国人と、孤児と、寡婦を呼んで、それを食べさせ、満足させなければならない。」（申命記 14：29）。靈感はわたしたちに次のように教

えています。「わたしたちは貧しい階級の人々を無視して、すぐれた才能のある人々だけを考えてはならない。キリストは使者たちに、小道やかきねのあたりに行って、貧しく身分のひい人々のところへも行くようにお教えになった。大都市の裏町や小道に、いなかの人通りの少ない小道に、教会とのつながりもなく、寂しく、神は自分たちをお忘れになったと感じている家族や孤独な人々—それは母国をはなれた外国人かもしれない—がいる。」⁶

わたしたちの偏見を捨てる

10 代の頃、わたしは寄宿学校の学費を稼ぐために毎日約 5 時間、戸別訪問をしていました。先生は、盛大な晩餐会のたとえ話に出てくる多くの良い原則を教えてくれました。一つは、近隣のあらゆる階層を訪問すべきだということ、つまり売上が見込めそうな地域だけでなく、すべてをまわることです。ある日は裕福な地域、次の日は中流階級の地域、そしてまた別の日は貧しい地域を訪問します。

ある日、貧困地域で戸別訪問をしていた時、啓発的な経験をしました。玄関に近づくと、この家に住んでいる人々の粗暴な性質をあらわしているかのようなものに気づきました。カリフォルニア州ロサンゼルス近郊で育ったわたしは、その匂いを嗅ぎ分けることができました。そして確かに、それは本当でした。ドアを開けると、リビングルームで男たちが酒を飲み、マリファナを吸っているのが見えました。また、服の色や種類から、おそらくギャングのメンバーだろうと分かりました。戸別訪問を始めるにあたり、まず「興味ない！」と言われてドアをバタンと閉められるだろうと思っていました。

しかし、そうではありませんでした。…わたしは手に持っていた 4、5 冊の本をすべて説明することができ、その間、その男性は辛抱強く話を聞いてくれました。わたしが話し終えると、彼は「ちょっと待って」と言い、20 ドル札を持って戻ってきて、「これも買います」と言い、靈的な本を指さしました。わたしがお釣りを渡そうとしたとき（当時は本は 10 ドルだったので）、彼は「お釣りはとっておいて、そのままあなたがしていることを続けてください。神の祝福がありますように」と言ったのです。

その家を出発しながら、わたしは自分が学んだ非常に貴重な教訓について深く考えていました。初めてその家に近づいた時、わたしはいくつかの先入観を持っていました。特にドアが開いた後、「なぜこのドアをノックしたのだろう？ この人たちは明らかに神と神の言葉に反することをしているし、彼らが興味を持たないようなことを話して、自分の時間も彼らの時間も無駄にするなんて」と考えました。しかし、聖書は魂についてそのような先入観を持つようにとはどこにも教えていません。ただ、失われた者を探し出して救うように命じているだけです（ルカ 19:10）。わたしたちが文書伝道をするときに重要なこととして教えられてきたこと、きちんとした服装、自分の話すべき文書を徹底的に知っていること、そしてしっかりと相手の目を見ることなど、このことが彼に感銘を与えたのだと思います。もしかしたら彼は「これが自分の生き方であるべきだ」と思ったのかもしれないし、「この若者は正しい道を歩んでいるので、支えよう」と思ったのかもしれません。わたしはまた、この本によって種が蒔かれ、彼自身も正しい道を歩みたいと願ったこと信じています。

「神は、わたしたちが旅人や、世から捨てられた者や、道徳力を失った貧しい人々を顧みるようにと特別な命令を与えられた。宗教には全く無関心に見える多くの者が、心の底では、休みと平安を求めている。彼らは罪の非常に深みに沈んでいるけれども、彼らを救うことができるである…

さ迷い出て、失望しているあわれな者に、絶望する必要はない語りなさい。彼らはあやまちにおちいり、正しい品性を築かなかったけれども、神は彼らを回復することを喜び、人びとを救いに入れることを喜ばれる。神はサタンにつかれていた一見全く望みのない者をすくって、恵みの支配をうける者とすることをお喜びになる。神は不従順の者の上に下る怒りから彼らを救うことをお喜びになる。すべての人のためにいやしきよめが備わっていることを彼らに告げなさい。主の食卓には彼らのすわる場所がある。主は喜んで彼らを迎えようとして待っておられるのである。」⁷ この仕事に取り組むわたしたちにとって、何と美しい励ましでしょう。神は、あなたとわたしを用いてご自身の福音を分かち合い、

上記の物語に出てくる男性のような人々をご自身の姿に戻すことを望んでおられ、彼らが神の招きに応じてテーブルに着くのを待っておられるのです。

「小道」や「垣根」にいる別の人々

「生け垣」にいた愛しい魂についてのもう一つの特別な話は、わたしがワシントン州で文書伝道者プログラムを指導していた時のことでした。プログラムに参加していたデイジーという若い姉妹がいました（名前の使用許可を得ています）。彼女は初めて文書伝道を経験し、学ぶことをとても楽しみにしていました。彼女は人々に伝えたいという強い思いを持っていました。また、文書伝道者たちは収入の一部を自分のものにできるため、伝道学校に通うための学費を得られることも楽しみにしていました。

ある日、わたしたち全員が文書伝道に出かけていたとき、デイジーがひどく興奮し、恍惚（こうこつ）とさえしているのを見て驚きました。（普段はどちらかというと静かで落ち着いた女性です。）デイジーがある女性と素晴らしい体験をしたことがわかりました。その女性はちょうど数冊の本を買って、代金として紙幣がぎっしり詰まったランチバッグを彼女に渡したのでした。バッグの中には様々な額面の紙幣が合計約 350 ドルも入っていた。他の文書伝道者たちは驚き、デイジーにその女性について尋ねました。彼女はお金持ちはですか？

「いいえ」とデイジーは答えた。「彼女は全く逆で、暮らし向きも良くないのです」。その瞬間、わたしはデイジーを助けるために惜しみなく寄付してくれた女性を訪ね、感謝の意を表し、地元の牧師が彼女とさらに連絡を取れるよう連絡先を尋ねるべきだと印象を受けました。デイジーがその家の場所を教えてくれたので、わたしは古びた家の向かいに車を停め、玄関まで歩いて行きました。玄関ポーチには、裸足で身なりも乱れた 12 歳くらいの少女が、デイジーが母親に売ったばかりの本を見ていきました。

少女に母親と話をしたいと頼んでいると、ドアが開いていたので、評判も職業も怪しそうな女性がドアのところへ来て、わたしがだれなのか尋ねました。デイジー姉妹への惜しみない寄付に感謝を述べた時、わたしの心の中でどんな

考えが浮かんだか、想像できるでしょうか。なぜ—すべての人の中で—この女性が、これほど多額の寄付をデイジーにしたのだろうか？ そもそも、彼女はなぜ本や靈的な事柄に興味を持つのだろうか？

わたしの疑問はすぐに答えが与えられました。… 彼女にまだ受け取っていない本がいくつかあるので、もっと届けてもいいかと尋ねました。特に、彼女は十分以上の寄付をしてくださっていたので、なおさらです。また、地元の牧師が祈りや聖書研究などを行えるよう、彼女の連絡先を教えてもらえるかと尋ねました。

彼女は、聖書研究などのためには電話番号を教えないけれど、一つのことのためにはそれを教えると言いました。彼女は、デイジー姉妹の態度、そして神に従い、伝道者学校に通いたいという強い思いにとても感銘を受けたので、シングルマザーとして娘にも全く同じことを願っていると。彼女はわたしに自分の娘を文書伝道プログラムに入れることを許可してほしかったのです。わたしは、娘さんはまだ少し小さいと伝えました。それでも彼女を入れて、休み時間に別の場所へ行く間、わたしたちと一緒に行けるように迎えに行くことを約束しました。

すると女性は私に待つように言い、家に入つて、お金（別の約 350 ドル）が詰まった別の紙製のランチバッグを取りにいきました。その晩、わたしは 1 週間プログラムを離れなければなりませんでしたが、デイジーと残された責任者から、少女を何度も迎えに行き、色々な外出に連れて行くことができ、福音の種が蒔かれたと聞きました。

このことを思い返すと、シモンの家にいたときのマグダラのマリヤの物語を思い出します。この女性はマリヤのように、自分の娘のために神の国恵みという永遠の富を得る機会のためには、自分の持っているものすべてを喜んで捧げたいと思っていました。巡礼の旅の途中で、垣根のそばでこの女性や前の物語の男性のような人々に出会うとき、わたしたちは自問する必要があります。「わたしは、あるいはわたしたちは、パリサイ人シモンのように、裁きと非難に満ちているだろうか。それとも、キリストのようだろうか。」

「主人は彼のたまものをさげすんだ人々を捨てて、満たされない階級、家も土地ももっていない人々を招待した。

彼は貧しく飢えているもの、与えられたまものを喜んでうけるものを招待した。キリストは『取税人や遊女は、あなたがたより先に神の国にはいる』と言われた（マタイ2：31）。人々に相手にされず、顔をそむけられるようなみじめな人々ではあっても、しかし彼らは、神の注目と愛をうけられないほど低く、みじめになりさがってはいない。キリストは心配にやつれ、疲れ、しえたげられている人間が、ご自身のものに来ることを切望される。キリストは他のどこにも見いだすことができない光と、喜びと、平和を彼らに与えたいと望まれる。手のつけようのない罪人こそ、主の深く、熱いあわれみと愛の対象なのである。」⁸

結論

愛する兄弟姉妹、そして若者の皆様！失われた者を探し出し、救うという呼びかけに応えますか？

福音の招きは、全世界に「あらゆる国民、部族、国語、民族」（ヨハネ黙示録14：6）与えられなければなりません。

警告と憐れみの最後のメッセージは、全地をその栄光で明るくしなければなりません。それは、富裕層、貧困層、身分の高い人、低い人など、あらゆる階層の人々に届かなければなりません。キリストは、「道やかきねのあたりに出て行って、この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにひっぱってきなさい。」と仰せになります（ルカ14：23）。この召しを果たす最良の方法の一つは、あなたの子供、孫、甥、姪を文書伝道プログラムや宣教学校に送ることです。そこで彼らは大胆さと愛をもって福音を分かち合うよう訓練することができます。あなたもまた自分の住

んでいる地域社会で—彼らが裕福な専門家であれ、苦しんでいる隣人であれ、あるいは信仰から遠く離れた人であれ—関係を構築することによって、親切な態度、実際的な助け、希望の言葉、あるいは単に共感を持って耳を傾けることによって、自分が祝福され、自分の召しを果たすことができます。社会から忘れ去られたり拒絶されたりする人々と、食料、衣服、靈的文献などの資源を分かち合いましょう。また、教養があり影響力のある人々とも交流し、永遠の真理について思慮深い議論を交わしましょう。キリストのように、あらゆる人々と交わることで、わたしたちは彼らの信頼を勝ち取り、聖餐へと招くことができます。

主がわたしたち一人一人を、組織的な努力と個人的な証を通して用いてくださり、大宣教命令（マタイ伝28:19, 20）を遂行し、大晚餐に人々を招きながら世の光としてくださいますように。アーメン！

.....

引用：

- 1 キリストの実物教訓 203
- 2 同上 206
- 3 同上 209, 210
- 4 ミニストリー・オブ・ヒーリング 115
- 5 同上 8
- 6 キリストの実物教訓 212
- 7 同上 213, 214
- 8 同上 206



金曜日 2025年12月12日

「あなたの信仰があなたを救ったのです」

リカルド・ガイエ著 アンゴラ

「『み衣にさわりさえすれば、なおしていただけるだろう』。」(マタイ9:21)。この言葉を語ったのは十二年間もむずら、そのために自分の生涯を重荷にしていたあわれなひとりの婦人であった。彼女はすべての資産を医者や治療に費やしたあげく、回復の見込みがないと宣告された。しかし大治癒者イエスのことをきいて、その希望が再び甦ったのである。そして『もしキリストとお話ができるくらいの所まで近よることができさえしたら、いやされるかも知れない』と思つた。

キリストは、娘をいやしてくださいと頼みにきたユダヤのラビ、ヤイロの家に行かれる途上だった。『わたしの幼いむすめが死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください』(マルコ5:23)、との悲しみにくだかれた嘆願は、やさしい同情深いキリストのみ心に触れ、キリストはただちに宰といっしょに彼の家に向かわれた。

群衆がキリストのまわりにおし寄せて來るので、みんなは徐々にしか進めなかつた。救い主は群衆の中をお通りになって、病気の婦人の立っている所に近づいて來られた。

女は幾度かキリストに近よろうとして努力はしたが、むだだった。しかし今や彼女に好機がおとされた。ただ彼女はキリストにどう話しかけてよいかわからず、またそのおそい歩みをさまたげたくはなかつた。しかしキリストのみ衣にふれるといやされるということをきいていたので、自分がなおる唯一の機会をのがすのを恐れて、彼女は『み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろう』と言いながら前に進んだ。

キリストは彼女の心のすべての思いをご存じだったので、彼女が立っていた所にご自分から近寄つて來られた。キリストはその女の大きな必要をみとめて、彼女が信仰を働かせるのを助けられた。

キリストが行き過ぎようとなさったとき、彼女は手をのばしてやつとそのみ衣のすそにふれた。そのとたんに彼女は自分がいやされたことを知つた。その一触には彼女の命がけの信仰が集中されていたので、直ちに彼女の痛みも病弱も消えてしまった。その瞬間彼女は、ちょうど電流がからだのすみずみまで通つたかのように感じ、完全な健康を感じたのである。「病気がなおつたことを、その身に感じた」(マルコ5:29)。

感謝にあふれたこの女は、長い十二年間医者がしたことよりも多くのことを、その一触で自分にしてくださった大治癒者に自分の感謝を表現したいと思ったが、その勇気がなかった。心に感謝しながら群衆の中から退こうとしたとき、突然イエスは立ち止り、周囲をごらんになって、『わたしの着物にさわったのはだれか』とたずねられた。

ペテロはおどろいてイエスを見上げ、『先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合っているのです』と答え(ルカ8:45)。

イエスは『だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ』と仰せになった(ルカ8:46)。イエスは信仰の接触と不注意な群衆の偶然の接触とを区別なさることができた。だれかが深い目的をもってキリストに触れ、そして答えられたのであった。

キリストはご自分が知りたいために、その質問をおかけになつたのではない。人々や弟子たちやその女にお教えるためであった。病人に希望を起させようとお望みになつたのである。いやす力を与えたのは信仰だということを示すとお望みになつたのである。」1

ベッドのかたわらでのわたしの経験

1996年、わたしは重病に苦しみ、命の綱渡りのような状態でした。公立病院でも私立病院でも、心霊術に基づく従来の医療に頼る病院が多いにもかかわらず、どこへでも行く覚悟でした。みだりに、昼夜を問わず電気がついている医療機関にたどり着き、そこで1年以上も入院することになりました。

この施設で推奨された回復への道筋は、わたしが予想していたものとは異なっていました。最初の数ヶ月は、生の食材を食べ、神のみ言葉を学び、講義を聞くという処方でした。それから半年近く経ち、スタッフがまずわたしの魂の癒しに焦点を当てたあとに、ようやく生理的な治癒がおとずれ、わたしがこの施設に来ることになった二つの大きな問題が解消されました。

わたしは、祖母に付き添われた若い患者さんと同じ病院にいました。彼女の病状はひどく、危篤状態にあり、動くことも身の回りのこともままならず、常に介助が必要でした。

人生の最後の数日間、この若い女性は寝たきりのまま、極めて深刻な健康合併症に苦しみながら、ケアとサポートを受けていました。

祈りを深く捧げる人だった祖母は、孫娘の膝の上で泣いていました。若い女性はほぼすべての主要病院に助けを求める、あらゆる治療法を試したようでしたが、それでも症状はおさまりませんでした。祖母は最後の手段として、聖書の「いわれのない呪いは来ない」(箴言26:2下句)という言葉にしたがって必死に論じ、神に罪を告白する必要があると強く訴えました。

「サタンは病気の創始者である。そして医者はサタンの働きと力に対して戦っているのである。精神の病気は至る所に蔓延している。人が苦しむ病気の9割はここにその基礎がある。おそらくは家庭問題が、がんのように、魂そのものを侵食し、生命力を弱めている。罪に対する後悔が、ときには、体質を徐々に弱め、精神のバランスを崩している。」2

献身的な祖母の真摯な訴えは、若い女性の心に響いたようでした。突然、皆が驚く中、患者は人生で自分が犯した神への露骨な反逆ともいえる、とんでもない行為をありのままに口にしました。若い頃のその行いのせいで、彼女はまるで大きな呪いにかかっているかのように感じており、それがこの身体の病となって現れたのでした。彼女は長い間、薬で治ることを願っていたが、症状は悪化するばかりでした。

今、若い女性は、長らく心を悩ませてきた罪悪の真実に向き合う必要性を感じ、罪人たちの唯一の救い主であるキリストを深く必要としていることを認めました。この時、彼女の悲劇的な過去を聞いた人々は、彼女のために熱心に祈りました。

この経験から得られる教訓があります。

「医者は人間の知恵や力以上のものを必要としている。彼は治療するように要求される精神や心の病気の数多くの複雑な病気の症例にどのように対応するかを知っているかもしれない。もし彼が神の恵みの力を知らないならば、彼は苦しんでいる人を助けることができない。かえって困難な状況は悪化する。しかし、もし彼がしっかりと神をつかん

でいるならば、病気の人や精神の分裂している人を助けることができる。彼は自分の患者にキリストを指し示し、彼らに自分の心配や困惑をすべて、重荷を負われる偉大なお方へ持っていくように教えることができる。

罪と病気のあいだには、神が決められたつながりがある。医者は一か月もあれば必ずこの例証を見ることになる。彼らはその事実を無視するかもしれない。彼の思いはあまりにも他のことでいっぱい、そこに注意が向かないかもしれない。しかし、もし彼がよく観察し、正直であれば、罪と病気は互いに因果関係にあることを認めないわけにはいかない。医者はこれを素早く認め、それに応じて行動すべきである。彼が苦しむ人々の苦しみを和らげ、彼らを墓のふちから引き戻すことによって、信頼を得るとき、彼は病気が罪の結果であり、健康と魂を破壊させる習慣へ彼らを魅了しようとするのは、堕落した敵であることを教えることができる。彼は彼らの思いに、自己を否定することと、命と健康の律法に従うことの必要性を、思いに印象づけることができる。青年たちの思いに特に彼は正しい諸原則を植えつけることができる。神はご自分の被造物を、やさしくもあり強くもある愛で愛される。このお方は自然の法則を制定された、このお方の律法は専横的な強要ではない。すべての「あなたは、…してはならない」は身体的な法則でも道徳律でも、約束を含んでいる、もしくは必然的に約束である。」3

施設の若い女性が神に罪を告白した後、彼女の顔には深い平安が浮かんでいました。わたしたちは皆、この平安が彼女の内から出たものではなく、イエス・キリストの内にのみ見出される天の平安を通してもらられたのだと気づきました。

確かに、しばらくすると、彼女の身体のより深刻な症状は和らいできましたが、その時彼女はこう言いました、「もう休みたい。お願い、休みたい。休みたい。」彼女は、これまで耐えてきた苦しみすべて、あの反逆的な生活の結果と見ていました。しかし今、彼女は全能者の美しさと永遠の知恵を認識し、その愛に満ちた保護に休んだのでした。それから間もなく、彼女は安らかに、そして神の優しい憐れみの中で息を引きとりました。

完全さのためのキリストのご計画

キリストは熱心に、苦しむ人々に希望を与え、キリストへの信仰が魂と体の癒しと回復をもたらすことを示そうとしておられます。

地球上では、最も単純なケースから最も複雑なケースまで、何百万人の人々が助けを必要としています。最大の問題は何でしょうか。詩篇記者は靈的な側面を神に認めています：「あなたの怒りによって、わたしの肉には全くところなく、わたしの罪によって、わたしの骨には健やかなところはありません」（詩篇 38：3）。

ほとんどの人は、果物、野菜、純粋な水を中心とした健康的な食生活、運動、休息、日光浴、新鮮な空気をたくさん吸うことなどが重要であることを認識しています。しかし、おそらく何よりも重要なのは、わたしたち全員が無視しがちな精神的および靈的な健康です。

厳しい食事制限を守り、食べ物を厳選し、多くの場合は栄養補助食品を摂取する人が多くいます。また、朝早く起きて、さらには寝る前にまで運動をする人もいます。しかし、彼らは誇り、虚栄心、情欲、無関心、そして他者への軽蔑に囚われ、この世で最も大切な運動（伝道活動、地に足をつけた福音の伝道、福音を伝えるために歩くこと、早歩きすること、走ること）を怠っています。

そしてまたさらに体と心の健康のために早く寝ることについて案じる人がいます。もちろん、それは正しいことであり、間違っていることではありません。しかし、仕事、ビジネス、学業といったさなかのそうした知的活動は、実はやがて過ぎ去るこの世での利己的で貪欲な利益と快樂への野心が動機になっているかもしれません。彼らは同じ犠牲を、宣教活動、障害者、病人、死や災害の苦しみに苦しむ人々への支援のために払うとなると気乗りがしません。こうした習慣によって、多くの場合、取り返しのつかない形で、短期的にも長期的にも、苦痛を、そして肉体的、精神的、靈的な病を自ら招いてしまいます。

肉体的、精神的、そして靈的な健康の真の源は、愛に満ちた父なる神と、偉大な医師イエスです。人間の思いとキリストの思いがつながることで、心、魂、神経細胞、そし

て重要な臓器に活力が与えられ、全身にも活力が与えられます。こうして病気を予防し、病んだ体を癒すのです。

苦い胆汁を根絶する

わたしは文書伝道者として、ある大きな国立銀行の印刷センターで講演をするよう招かれました。そこで、『キリストへの道』を含むわたしたちの書籍を紹介しました。講演の終わりに、部門長がわたしを事務所に案内し、わたしに瘦せて貧血気味の若い男性を紹介しました。髪は長く、顔は傷つき、膝には腫瘍があり、足を引きずりながら、ひどく苦しそうに歩き回っていました。彼は胸と背中の痛みに苦しんでいました。

なぜこんな状態になったのか尋ねると、彼は両親と3人の小さい弟と暮らしていたと話しました。父親が重病にかかり、最終的に亡くなった後、父親の親友の一人が当局に賄賂を渡し、市内中心部にある家族が住んでいた家の書類を偽造し、裁判所でその家は自分のものだと主張しました。裁判所はこれを認め、一家全員を路上へ追い出したのです。

この不幸な一家には行くところがなく、親戚でさえもはや彼らのことを気に留めなくなりました。ところが、思いがけず一人の男が現れ、市場の隣にある古い小屋を見つけてくれました。そこで彼らは貧乏暮らしを始めました。

この失望させる経験が、若者の心に激しい憤りを生みました。3人の兄弟は資金がないために学業を断念せざるを得ず、母親は精神的危機、高血圧危機、そして視力喪失に苦しみ、さらにこのトラウマが原因で兄弟の一人はてんかんを患いました。そして今、この若者も病を患っていましたが、家族を少しでも支えられるのは彼しかいませんでした。衰弱した体力のせいで大学を中退せざるを得ず、どの企業も彼を採用してくれませんでした。

すると、親切で情け深い紳士である銀行支店長が、彼を自分の部署で一緒に働くと招きました。書類や箱の整理、ゴミ処理などを手伝ってほしいと。支店長は月末に給料を受け取るたびに、この若者に少しづつ分け与えました。若者は膝の手術を、おそらく足を切断することになるが、待っていると、しかし、お金がなくてその日は来ない、と

言いました。こうしてわたしは彼に、魂を癒すイエス・キリストを紹介しました。彼は感謝し、本を手に取って読みました。一週間後、わたしは彼にキリストの赦しを紹介した。すると彼は目に涙を浮かべながら、自然にそれを受け入れた。そしてわたしは、家族に恥辱を負わせた男を赦してほしいと彼に願いました。

「わたしと母と兄弟たちにこれほどの不幸をもたらした人を、どうして許せるだろうか？」と彼は尋ねました。わたしは彼に、神が彼の心に働くてくださるままに、この戦いを主に委ねるようにと懇願しました。

しばらくして、彼はついに許すことに同意しました。わたしは家に帰り、当時医学を学んでいた妻にそのことを伝えました。妻はバケツを用意し、いくらかの土に、乾いた土の袋、またキャベツと玉ねぎを加えて用意しました。わたしたちはこれらを全て彼の家に持っていました。妻は土を彼の膝に塗り始め、有害な食物を控え、新鮮で自然な植物性食品をたっぷり摂るようにという証の書からの指示を与えました。同時に、わたしたちは彼の弟と母に薬を与えました。

確かに、主は自然療法を治癒手段として用いられます。回復の過程において重要な要素は、しばしば以下のことを認識することです。

「最もよく見られる罪の一つは、最も有害な結果を伴うもので、それは許さない精神にふけることである。どれほど多くの人が、敵対心や復讐心をいだきながら、神のみ前にひざまずいて、わたしたちが許す通りに許して下さいと求めることがある。たしかに彼らはこの祈りの重要性を真には自覚しているはずがない。さもなければ、あえてこの祈りを自分の唇にのせることはしないであろう。わたしたちは毎日毎時間、神のゆるしの憐れみに依存している。そうであれば、どうして同胞である罪人への苦々しさや悪意をいだいていることができようか！」¹⁴

地上で最も特権を受けている人々

わたしたちは世界の歴史の中で最も特権を受けている民です。聖書と預言の靈によって、最も大きな神聖な光が降り注ぐ時代に生きています。実際、預言の靈に込められた教えの恩恵を受けるという類まれな特権を享受して

います。預言の靈の中で、主は、わたしたちがどのように食し、どのように衣服を身につけ、どのように人と関わり、どのように事業を営むべきかを明確に示しておられます。預言の靈には、最高の精神的、靈的な支えが含まれている。わたしたちは、これらの教えをすべての人に伝え、精製された超加工食品の使用を控え、神の言葉と預言の靈に裏付けられていない世俗的な基礎や科学的主張を避ける厳格な働き人になる必要があります。わたしたちは、神との深い関係を求めなければなりません。このお方こそ、わたしたちの肉体的、精神的、感情的な幸福の唯一の絶対的な保証者なのです。

癒しの真の源

「救い主は、人間を支持し、いやすために絶えず働いている力を、その奇跡によってあらわされた。自然界の手段を通して神は毎日、時々刻々にわたしたちの生命を継続させ、増進し、回復するために働いておられる。からだのどの部分でも、傷をうけると、治癒の働きがすぐに始まり、自然の力が健康を回復するために働き始める。しかし、これらのものを通して働いている力は神の力なのである。人が病気からなおるときは神がおいやしになるのである。病気や苦痛や死は神に反する力のわざである。サタンは破壊者であり、神は回復者である。

『わたしは主であって、あなたをいやす者である』とイスラエル人に告げられたみ言葉はからだの健康、心の健康を取り戻す人々にとって、今日も事実である（出エジプト記15：26）。

すべての人間に神がお望みになることは、『愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに寛め、またすぐやかであるようにと、わたしは祈っている』（ヨハネ第三2）とのみ言葉の中に表現されている。『あなたのすべての不義をゆるし、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを墓からあがないいだし、いつくしみと、あわれみとをあなたにこうむらせ』になるのはキリストである（詩篇103：3、4）。」¹⁵

これらの物語や文章の中で、わたしたちは明確な真実を見ます。それは、靈的な癒しは、肉体的な癒しの促進

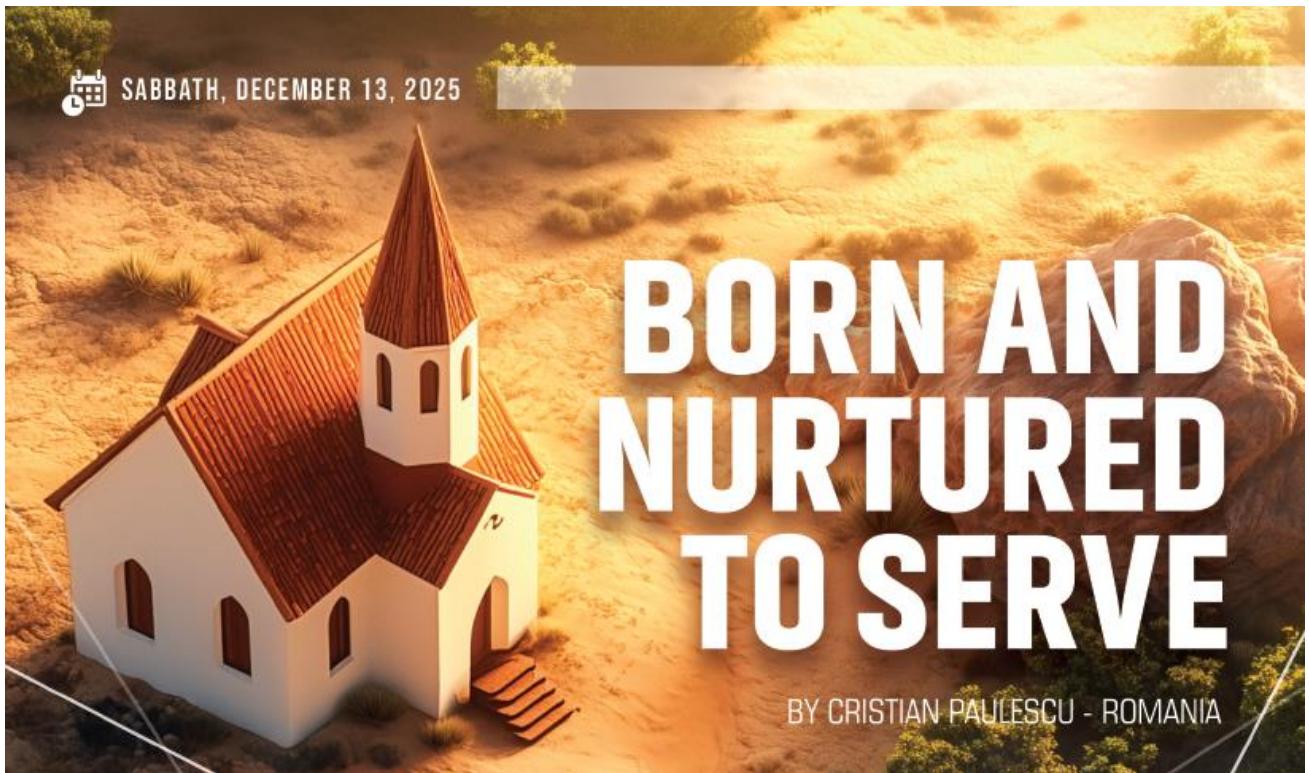
に大きな違いをもたらすことがあるということです。信仰と悔い改めには、独特の方法で体を強化する力があります。イエスの衣に触れた女性は、信仰のゆえに癒され、わたしたちがイエスのもとに来る必要があることを示しました。わたしたちがこうして自分の罪に病んだ碎けた心を開いてこのお方の憐れみを受けるとき、次の経験が現実になります。「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」（ヨハネ第一1：9）。「主はわたしの魂をいきかえさせ、み名のためにわたしを正しい道に導かれる」（詩篇23：3）。

神が与えてくださる偉大な平安を享受することを、何が妨げているのでしょうか？気づいていない罪や、まだ背負っている重荷がないか、自分の心を探ってみたでしょうか？もしかしたら、誇りが神の恵みを十分に味わうことを妨げているかもしれません。考えてみる必要があります。あなたは、完全な者になるために何を手放すべきでしょうか？平安を見いだすことを妨げている隠れた葛藤は何でしょうか？神はすべてをご覧になっておられ、謙虚に神に近づくすべての人に、神の癒しの憐れみが与えられます。

魂と体を癒すキリストに頼る必要があります。罪を告白し、癒しを妨げるものを手放し、キリストの無限の力に信頼を寄せる必要があります。そうすれば、平安と完全な回復が訪れます。主は「わたしは主であって、あなたをいやすものである」（出エジプト記15:26）と約束されました。そして、その言葉は必ず実現します。わたしたちの痛みと悲しみを身に受けてくださった主を通して、まず魂の癒しを求める必要があります。そうすれば、他のすべては主の御心によって整えられるでしょう。アーメン！

引用：

- 1 ミニストリー・オブ・ヒーリング 34-36
- 2 教会への証 5巻 443, 444. 【強調付加】
- 3 同上 444.
- 4 同上 170.
- 5 ミニストリー・オブ・ヒーリング 81, 82



安息日 2025 年 12 月 13 日

奉仕するために生まれ、育てられる

クリスチャン・パウレスク著 ルーマニア

なぜ 100 年なのか？

「教会は人類救済のために神がお定めになった機関である。教会は奉仕するために組織された。その使命は世界に福音を伝えることである。教会を通して神の満ちあふれる豊かさを世界に反映させることができ、神のはじめからのご計画であった。暗やみから驚くべき光に招き入れられた教会員たちは、神の栄光をあらわさなければならない。」¹

主イエス・キリストは昇天前の最後の遺産として、民に大宣教命令をお与えになりました。この記念的な宣言により、教会はこの罪深い世界に設立され、魂の改革のために働くことになりました。教会は永遠の福音をすべての人に伝えるよう命じられています。時間、才能、そして資源はすべて、この目的を至高の目標として、わたしたちに託されているのです。

キリストの教会として、この世界の悲惨な状況を見つめ

るとき、わたしたちは真剣に自分自身に問いかける必要があります。「キリストのためにわたしたちはなすべきことがまだたくさんあるのではないだろうか。わたしたちが何らかの理由で見落としている大きな責任があるのではないだろうか。わたしたちはイエスと交わした契約のうち、まだ果たしていないものがあるのではないだろうか。」

わたしたちは言い訳に隠れがちですが、問題は共産主義でもローマ教会でも自由主義でも近代主義でもありません。問題は休眠中のキリスト教なのです！わたしがしていることは本当に永遠に意味があるのだろうか？本当にキリストのみ事業を前進させているのだろうか？そうでなければ、わたしたちが何をしようと、何の意味もありません。かつてだれかがこう言いました。神は教会を、信心が腐らないように守る冷蔵庫ではなく、むしろ新しい改宗者を生み出す孵化（ふか）器になるべきだと。

家庭—主要な伝道学校

「一つの秩序正しい、よくしつけられた家族は、与えることのできるすべての説教よりもはるかに多くのことをキリスト教のために語る。こういう家族は、両親が神の指示に従うことにして成功したこと、また**彼らの子供たちが教会で神に仕えることを立証している**。彼らの影響はしだいに広まっていく。それは、彼らが与えると同時にまた分け与えるために受けるからである。子供は家庭で受けた訓練を他人に伝えるから、**父親や母親は彼らがよい助け手であることを見いだす。彼らの住む近所の人々は助けを受ける**。なぜなら、**彼らはそこで現在および永遠のために富む者とされるからである**。」²

「〔神は〕わたしたちの民の家庭から、青年の大きな群れが集まって来るのを見たいと望んでおられる。すなわち、自分の家庭の信心深い感化力のゆえに、自分の心を神に明け渡し、このお方に自分の生涯の最高の奉仕をお捧げするために出て行く青年たちである。」³

親の責任

使徒は「わたしの子どもたちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない」と宣言しています（ヨハネ第三 4）。

神は小さい子供たちをもってわたしたちを祝福してされました。なぜ彼らがわたしたちに与えられたのでしょうか。このお方のために育てるためです。わたしたちの責任は何でしょうか。聖書は次のように述べています。「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」（箴言 22：6）

「子供たちの管理と教えは、男女が取り掛かることでできる働きの中で最も高尚な伝道の働きである。…

わたしたちは自分の家庭に伝道の熱心さが必要である。それによって命のみ言葉を自分の家族の前にもたらし、彼らを神の御国にある家庭を求めるよう導くことができる。」⁴

親がわが子を祝福してもらい、神に獻げるために連れて行くのは素晴らしいことですが、それだけでは十分ではありません。その祝福を受け続けるためには、次の段階が不可欠です。それは、神の御国への発展のためにキリストに仕

えるという明確な目的をもって子供を教育することです。すべての子供は、他者の救いの器となるように召されています。子供たちの奉仕には、可能な二つの方向性があります。「子供たちは罪に仕えるように訓練されるか、義に仕えるように訓練されるかのどちらかである。」⁵

奉仕することを学ぶ

「余暇の時間を幾らか子供に与えなさい。働きにおいて遊びにおいて彼らと共に交わり、彼らの信頼を獲得しなさい。彼らの友情を育てなさい。」⁶

あなたはアドバイスをすると決め込んで、ラジオのように毎秒、勧告を送り続けているかもしれません。しかし、お子さんにアドバイスを与えるばかりではなく、あなたの心を与える必要があります。ほんの少し話すことによって、子供たちに多くのことを教えなさい。

「どの母親も、子供にこうしたちょっとした愛撫（あいぶ）を与える時間を持たねばならない。それは赤ん坊時代や幼児時代の子供にはなくてならぬものである。母親はこういうことを通して、子供の心と幸福を、自分のそれと結びつけることができるのです。子供にとっての母親の存在は、わたしたちにとっての神の存在のようなものである。」⁷

子どもたちに奉仕することをどのようにして教えるべきでしょうか。愛を与えることによってです。親の皆さん、美しく生きるとは、愛情をもって子どもたちや配偶者に自分自身を与え、高齢者に手を差し伸べ、墮落した人の痛みに注意深く耳を傾け、だれでも助けを必要とする人に寄り添うという贈り物を差し出すことです。

この時がわたしたちに与えられたのは、わたしたちが自己に死に、キリストにおいて復活を経験するためです。

効果と実りを実現するためのかぎは 1 つだけです。イエスはこう説明しています。一粒の麦が実を結ぶためには、死ななければならない、と。そして使徒パウロはこう述べています。「**生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである**」（ガラテヤ 2：20、強調追加）。キリストがわたしたちのうちに生きられるとき、その結果は何でしょうか。わたしたちがこのお方の命を生きるのです。しかし、イエスが地上にいたときの

生活はどのようなものだったでしょうか。彼の全生涯は、ひたすら愛に満ちた奉仕でした。

模範の力

「あなたがたが、わたしから学んだこと、受けたこと、聞いたこと、**見たことは、これを実行しなさい**」（ピリピ 4：9）
[強調追加]。

「天の聖徒になりたいと思う者は、まず自分の家庭で聖徒とならなければならない。父親や母親が家庭で真のクリスチヤンであれば、教会でも役に立つ教会員であり、教会や社会の問題を、家庭の問題と同じ方法で処理することができる。**両親がた、あなたがたの信仰が単なることば上のものではなく、実のあるものとなるようにしなければならない…**。家庭において柔軟と親切と礼儀を示さなければ、わたしたちの宗教は無意味である。家庭における宗教がもっと真実なものであれば、教会にはもっと力があるであろう。」8

「クリスチヤンの家庭は生活の真の原則がすぐれていることを実証する実物教訓でなければならない。そういう実証は社会を益する力となる。……**青年がこういう家庭から出ていくとき、彼らは学んだ教訓を他に伝え…るのである。**」9

わたしたちは子供たちが模範となることを望みます。それは素晴らしいことです。それは崇高な願いですが、今日の子供たちの姿は、昨日わたしたちがどう生きたかの結果なのです。昨日蒔いた種を、今日刈り取ります。父親は家庭の祭司となる必要があります。母親は神のために子供たちを育てなければなりません。子供たちは神の力に触れる必要があります。そして、わたしたちのかぎの句は「明日ではなく、「今でなければ二度とない」とあるべきです。

怠惰な「雄バチ」はいない

「子供たちはごく幼いときから自分のことは自分でし、他人を助けて役に立つ者となるように教えられなければならない。」10

「親は子供たちに何もしないことが罪であることを教えなければならない。

子供たちから重荷をとりあげて怠惰な目的のない生活をさせたり、何もせずにおらせたり、自分の好きかつてなことをさせることほど彼らを確実に悪に導くものはない。」11

「信仰の家に、怠惰な雄バチはいない。家族のすべての者が自分にわりあてられた任務、すなわち働くべき主のぶどう畠のある部分を持っている。」12

わたしたちの子供たちへの教え方は、彼らにどのような影響を与えているでしょうか。彼らは生き生きと育つでしょうか、それともただ衰えていくだけでしょうか。自分のことばかり考えると、横柄で傲慢になります。このような態度にふける子供たちは、そのように成長していきます。その結果、矮小で時間を持て余した世代、神のために活動しない人々が生まれます。神と神の教会は、タラントを地に埋めてしまうような親や子供たちを必要としていません。神の教会に必要なのは、傍観者ではなく、活動的な働き人です。」「天では仕事がたえず行なわれている。天にはなまけ者はいない。キリストは『わたしの父は今に至るまで働いておられる。わたしも働くのである』と言われた。」13

炎を灯す

「ともしうはどんなに小さくても、つねに燃えてさえいれば、他の多くのともしうに火を点するものとなれる。」14

自然の法則により、火は別の火を生む。もし周囲に他の可燃性物質があれば、鉄床から火花が散るだけで火が燃え上がります。しかし、一本のろうそくがあれば、何万ものろうそくに同じように火が灯るのです。バプテスマのヨハネは、自分の後に来る方が「聖霊と火でバプテスマを授ける」と宣言しました。これこそが現代わたしたちに最も必要なこと—火でバプテスマを受けた教会です。これこそ、悪魔とその王国が恐れているもの、すなわち、神の愛の火によって燃え上がる教会です。だれがこれに耐えられるだろうか。神への愛は強力な発電機のように、あなたを神のために大きなことを成し遂げるよう駆り立てます。愛する青年がた、そして愛するご両親がた、今は聖霊を消したり、神の力を制限する時ではありません。かえって信仰を通して前進する時のです！

「眞の弟子はみな伝道者として神の国に生れているのである。生ける水を飲む者はいのちの泉となる。」15

「神は現代の真理のメッセージを宣言するために、つつまい立場にある人々を動かされる。多くのこのような人々が、やみの中にいる人々に光を与えるために、神の御靈に迫られてあちらこちらへ急いでいるのが見られるであろう。真理は彼らの骨のうちにある日のように、彼らを闇の中に座している人々を明るく照らしたいとの燃える願いでみたす。多くの人々は、教育を受けていない人々の間にいて、主のみ言葉を宣布する。子供たちは聖靈に迫られて天のメッセージを宣言するために出て行くのである。御靈はその促しに明け渡す人々の上に注がれる。人の課した規則やためらいがちな運動をふり払い、彼らは主の軍勢に加わるのである。」16

世界が最も必要としている賜物を、どのように発達させることができるか？

「人生は、真剣に働き、責任を負い、ほねおることであるということを青少年たちに教えなければならない。彼らは、実際的な人間—非常事態と戦うことのできる男女となる訓練をうけなければならない。組織立った、規律正しい労働は、人生の浮き沈みの防壁としてばかりでなく、円満な進歩に役立つものとして無くてはならないものであることを、少年少女たちに教えなければならない。」17

下記が必要：

1. **敬虔な若者。**若者は、どのようにキリストとその御國を心から愛するか、どのように心を尽くして主に仕えるよう献身するか、また、どのようにいかなる自己否定や自己犠牲にも備え、主が召されるいかなる仕事にも備えるべきかを教えられる必要があります。家庭であろうと家庭外であろうと、上流社会であろうと下流社会であろうと、どんな場所であろうと、キリストのために効果的に行動する必要があります。キリストは若者が平凡な生活を送るようには意図されませんでした。

2. **発達した知性を持つ若者たち。**世俗の人々が活動

や職業において卓越性を目指す一方で、若いクリスチャンは救い主の王国のための働きにおいて平凡で満足するでしょうか。心の熱意が知識の欠如を補ってくれると信じ、神の助けへの依存を歪めないよう気をつける必要があります。戒めは「心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛せよ」です。これは神に仕えることと神を愛することの両方に等しく当てはまります。わたしたちの若者には、均整のとれた、洗練された知性が必要である。

3. **自己犠牲的な若者。**「今この瞬間を楽しむ」とは、つかみ取るべきものではなく、むしろ犠牲とされるべきものです。「神はそのひとり子をたまわったほどに…愛して下さった」。神はイエスを賜物として与えてくださったので、わたしたちは与える者となることができます。今こそ、これまで以上に、キリストに仕える献身的なもべが必要です。「どの青年も、どの子供も、神の栄えと人類の向上のために、それぞれしなければならない働きをもっている」18

最高の特権

親愛なる青年がた、皆さんは物質的または職業的な進歩の奴隸、時計、電話、その他の機器の奴隸、幸福の奴隸、あるいは勘違いから生じた夢の奴隸になっているかもしれません。これらすべて、あるいは他のいかなる形の隸属（れいぞく）も、人生を無駄にすることを意味します。キリストに倣うということは、社会的なはしごをのぼる者になることを意味しているのではありません。支配で頭がいっぱいになることでも、快適な生活を送ることでもありません。むしろ、それは与えることを意味します。本当に大切なことはすべて与えることに基づいており、惜しみなく与える寛大さがなければ人生は生きるに値しません。与えることは、実際に所有することです。みなさんは、自分の中におられるキリストに、ご自身を捧げないように強制したいでしょうか？もしそうしたいのであれば、キリストは皆さんの中には生きておられず、皆さんは自分の利己心に仕える者であり続けるでしょう。

あなたは偉大なことを成し遂げられないかもしれません。教会に雇われるため召されることはないかもしれません。

どんな奉仕も、小さすぎることではなく、何一つ大きすぎるものもありません。多くの人が世界を変えたいと思っていますが、あまりにしばしば、愛されていると感じさせるような小さなことをしようとする人はだれもいません。あなたがどれだけ与えるかの測りが、どれだけ受けるかの測りです。

「このようにイエスと協力者になれることは、特権ではないだろうか。魂を救うという壮大な働きに関わり、自分の救い主に割り当てられた役割を果たすとは、誉れではないだろうか？そして、他の人に祝福を与えるながら、自分自身が益をこうむらない人は一人もいないのである。『人を潤す者は自分も潤される。』(箴言 11:25)。」19

「わたしたちの信仰はよい行いで繁茂しているべきである。なぜなら、行いのない信仰は死んだものだからである。実行された一つ一つの義務、イエスの名によって払われた一つ一つの犠牲は、はなはだしく大きな報いをもたらす。義務の行為そのものの中で、神は、ご自分の祝福を語り、お与えになる。しかし、このお方はわたしたちに、機能の完全な明け渡しを要求なさる。思いと心、存在全体が、このお方に捧げられなければならない。さもなければ、わたしたちが眞のクリスチヤンになるのに不足する。」20

報い

「しかしあなたがたは勇気をだしなさい。手を弱くしてはならない。あなたがたのわざには報いがあるからです」(歴代志下 15:7)。

親愛なる若者の皆さん、親の皆さん、まるで末期の病に直面するかのように、毎日を生きる必要があります。キリストから受けたことを今日も捧げる必要があります。世界は神の愛のあらわれを切実に必要としています。改革運動が始まつてから少なくとも 100 年経った今、この運動がキリストの愛と真理の力によって搖るぎないものとなることを願います。この運動が鎮圧されることなく、火山のように

噴火し、全地が神の愛に包まれることを心から祈ります。

親愛なる若者の皆さん、そして親の皆さん、間もなく全世界を神の栄光で包み込むこの運動に加わるでしょうか。この愛の地震は世界の果てまで届き、そして永遠を貫き、そこまで響き渡るでしょう。選択はあなた次第です。賢明な選択をしてください。キリストのために燃えることを選び、光となりましょう！

.....

引用：

- 1 患難から栄光へ上巻 1
- 2 アドベンチストホーム 24[強調追加]
- 3 両親、教師、生徒への勧告 131. 〔強調付加〕
- 4 チャイルド・ガイダンス 476.
- 5 両親、教師、生徒への勧告 108.
- 6 アドベンチストホーム 207
- 7 同上 213
- 8 同上 356、358[強調追加]
- 9 同上 23[強調追加]
- 10 同上 316
- 11 同上 318
- 12 教会への証 4巻 454.
- 13 アドベンチストホーム 321
- 14 同上 25
- 15 各時代の希望上巻 234
- 16 教会への証 7巻 26, 27.
- 17 教育 255、256
- 18 アドベンチストホーム 313
- 19 健康に関する勧告 508.
- 20 教会への証 4巻 145.



28

The Reformation Herald Vol. 66 No. 4

日曜日 2025年12月14日

弟子にして

オルガ・オルティス著 コロンビア

真の教育

初めに、神は家族を社会の核、つまり人格、習慣、価値観の形成と発展の場としてお定めになりました。「エデンにおいて確立された教育の制度は、家族を中心とするものであった。」¹

神の計画は、墮落後の人類にあわせて適応しました。真の教育とは、人類を贋い、回復し、キリストの品性に従って肉体、精神、そして靈的な能力を発達させる働きです。それは知識の習得にとどまらず、この地上と永遠の世界における奉仕の人生に個人を備えさせることを目指します。その基盤は神の御言葉と聖霊の導きにあります。父なる神の代表者であり、神と人類をつなぐ存在であるキリストは、人類の偉大な教師であられ、男女は神の代表者となるよう定められました。家族は学校であり、両親は教師でした。この原則は、主イエスの地上での生活において忠実に守られました。

キリストの教育

「イエスはいなかの家に住んで、家庭の重荷を負うために、ご自分の立場を忠実に快活に果された。イエスは天の司令官で、天使たちはそのみことばによろこんで従っていたのだったが、いまは自発的なしもべであり、従順な愛らしい息子であった。イエスは手仕事をおぼえ、ご自分の腕でヨセフといっしょに大工の仕事をされた。彼は一般の労働者と同じ粗末な服を着て、小さな町の通りを歩いて、そのいやしい仕事に往復された。イエスはご自分の重荷をへらしたり、骨折りを軽くしたりするために天来の力を用いにならなかった。」²

イエスの家は、イエスの主な学校であり、マリヤとヨセフは神の教えに導かれてイエスが成人へ成長するまで重要な役割を果たしました。イエスが育った文化的また家庭的な環境は、自然と単純さに囲まれ、イエスの品性をさらに形成し、このお方の神とのつながり、また人間の必要とのつながりを強めました。

「キリストの時代にユダヤ人は自分の子供たちの教育に大変な注意を払っていた。彼らの学校は会堂、つまり礼拝の場所と関連していて、教師はラビと呼ばれた。彼らは非常に学識のある人とみなされていた。

イエスはこれらの学校へ行かれなかった。なぜなら、彼らは真実でない多くのことを教えていたからである。神のみ言葉の代わりに、人の格言を研究し、しばしばこれらは神がご自分の預言者たちを通してお教えになってきたことに反していた。

神ご自身がご自分の御靈によって、どのように御子を育てるべきかをマリヤにお教えになった。マリヤはイエスに聖書から教え、イエスは聖書を自分自身で読み、研究して学ばれた。」³

誤った概念

イエスが家庭で受けた教育とは対照的に、当時のラビ学校は教育の本質を見失い、儀式に重点を置き、空虚な形式主義に染まっていました。その結果、神との個人的なつながりを育むことも、真の神の原理に基づいた品性形成を促すこともない教育となっていました。これは、わたしたちが今日生きている現実とどこか似ているのではないか。

「教育についてのわれわれの考え方は、あまりに範囲が狭く、またあまりに程度が低い。もっと広い識見ともっと高い目的がなければならない。真の教育は、ある勉学の課程を修めることよりももっと深い意味をもっている。それは、現世の生活のために準備すること以上のことと意味している。真の教育は、人間の知、徳、体に関係があり、また人間に可能な限りの生存期間の全体にわたって関係がある。それは知、徳、体の能力の円満な発達を意味している。真の教育は、この世における奉仕の喜びと、さらにまたきたるべき世界におけるいっそう広い奉仕の、より大いなる喜びのために、生徒を準備させることである。」⁴

残念なことに、この世の学問においては、人生において、そして天国への準備において非常に重要な品性と価値観が軽視されています。過去の過ちを理解することで、わたしたちは神の教育の真の目的を再発見することができま

す。

これはどういう意味か？

真の教育は神から来るものであり、その目的は人間の中に神のみかたちを回復することです。真の教育とは、学問的知識の習得に限定されるものではなく、人間の精神的、道徳的、社会的形成をも含みます。したがって、それは神聖で厳粛な働きです。聖書の中で、神が子供の教育について親にどのように勧めているかを見る事ができます。アブラハムについて主はこう宣言しておられます：「わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行わせるために彼を知ったのである」（創世記 18：19）。アブラハムは神との密接な関係により、家族を主の道で教育しました。これを家庭で実現するには、魂の救い主への愛ある献身の習慣を培い、祈りを通して夢も悲しみもすべて聞いてくださる友がいることを子供たちに教えることも同様に必要です。毎日聖書を読むことによって、神のご性質と、神が慈悲深い愛をもってどのようにわたしたちを扱ってくださるかを理解するということです。こうして子どもたちは、他の人々を尊敬と愛と忍耐をもって扱うことを学びます。天父が、人類に憐れみ深く親切であられるように、子どもたちも憐れみ深く親切になることを学びます。真の教育を理解すると、この過程の究極の目標は品性形成であることに気づきます。なぜなら、これだけが、わたしたちが天国に持っていく唯一の宝だからです。

誤った決断の結果

品性形成は人生における根本的かつ超越的な過程です。人格はわたしたちが天国に持っていく唯一の財産であり、家庭で築かれるものです。

「神のかたちにかたどって形成された品性は、この世からきたるべき世界に持って行ける唯一の宝である。この世で、キリストの教えを受けたものは、その身につけた神の性質を全部天の住居に持っていくのである。そして、天では絶えず成長する。であるから、この世で品性を形成することは、非常にたいせつなことである。」⁵

親の神聖な仕事は、子供たちに神を畏れ従うよう指導し、

聖靈の助けを得て天の御父に似た品性を発達させるように教えることです。主はこう宣言されます。「きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない」（申命記 6：6、7）

親が神から与えられた教育の指針を軽視し、その厳肅な義務を放棄するなら、子どもたちは魂の敵によって教育されてしまいます。祭司エリの例に注意すべきです。サムエル記上 2：12 には、「エリの子らはベリアルの子らであって、主を知らなかつた」と記されています。子どもたちは、これまで以上に注意深い見守りと導きを必要としています。なぜなら、サタンは子どもたちの心と精神を支配し、神の靈を追い出そうと躍起になっているからです。

「この時代の青年たちの恐るべき状態は、わたしたちが終わりの時代に生存しているという最も強力なしるしの一つをなしている。しかし多くの人々の破滅は、親の誤った管理に直接、起因している。譴責に対するつぶやきの精神が根ざし、不服従という実を結んでいる。親は自分の子供たちが発達させている品性に喜んでいない一方、今の彼らの状態にした過ちを認めるのに失敗している。」⁶

親は、キリスト教の教育は知性だけでなく、品性の発達、道徳の形成、そして永遠の命への備えにも焦点を当てるということを理解する必要があります。神のみ言葉を人生の規範としなければ、親は責任を正しく果たすことはできません。親は、自分に託されたすべての貴重な人間という宝を教育し、品性を形成し、最終的には眞の教育の原則と、永遠の意味を持つ過程としての品性形成の重要性を理解できるようにしなければなりません。現代において、わたしたちは子供たちの友情について特に注意深くなければなりません。彼らが友人として選ぶ仲間は、天の御父の姿を映す助けとなるでしょうか、それともこの世の君を映すように影響を与えるでしょうか。彼らが見ているメディアの内容は、彼らを聖化するものでしょうか、それとも彼らの価値観を低下させ、靈的な習慣を腐敗させるでしょうか。彼らを狭い道に導くために、家族の模範は極めて重要なものです。

家族の模範

キリスト教の教育は、幼少期に最初の教師である両親の模範から始まります。だからこそ、家庭に小さな天国を作るよう強く勧められています。子供たちが両親の模範に倣って学ぶようにするために、ガラテヤ書 5：22、23 では、御靈の実は愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔軟、自制と表現されています。これらは、確固としたクリスチヤン品性を形成する資質です。ソロモン王はわたしたちに、「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない」（箴言 22：6）ことを思い起こさせています。使徒パウロもまた、神の御心にしたがって心と品性を新たにするよう勧めています（ローマ 12：2）。マタイによる福音書 5：48 では、イエスご自身が、天の父が完全であるように、わたしたちも完全であるようにと求めておられます。これは、キリストに似た者へと絶えず成長していくことを意味しています。品性建設は、聖靈の介入と個人の献身を必要とする、継続的な変革の過程です。キリスト教教育と生活の第一の目的は品性建設です。

「このような教育は、単なる知的な訓練以上のものをあたえ、また肉体的な訓練だけよりもまさったものをあたえるのである。それは品性を強くするので、眞実や正直さが、欲望や世俗的な野心のために犠牲にされるということがない。それは罪悪に抵抗する心を強める。欲望に身をまかせてこれに滅ぼされることなく、あらゆる動機と願望を正義の大原則に一致させる。神のご品性の完全さを心に思い続けるとき、精神は新しくなり、魂は神のみかたちに再創造される。」⁷

親は、子供たちを悪い影響力から遠ざけ、その影響力がどのように品性を歪め、最終的には子供たちを神から遠ざけるのかを認識させることによって、楽しく健康的な環境を培う必要があります。「行為をくりかえすとき、それは習慣になり、習慣は品性を形成する。人生の小さな義務を忍耐づよく果しなさい。小さな義務を忠実に果すことがどんなに大切であるかということを軽視しているかぎり、品性の形成は満足すべきものにならない。全能なる神の御目に

は一つ一つの義務が大事なのである。主は「小事に忠実な人は、大事にも忠実である」と言られた。真のクリスチヤン生活にとって大切なものは何一つない。」8

総合的な品性形成は、以下の原則に基づく必要があります。

1. 神に頼る：毎日祈りと聖書の勉強を通して神を求める。
(ピリピ 4:13)
2. 規律と自制：思い、言葉、行動を制御すること（箴言 16:32）
3. 他者への奉仕：他の人々を愛し、助けることによって高潔な品性を養う（マタイ 25:40）。
4. 幼児期からの神の原則に基づく指導（箴言 22:6; テモテ第二 3:15）。
5. 変革における忍耐力：品性建設は、魂がイエスのみ姿を完全に反映するまでの継続的な過程である（コリント第 2 3:18; 初代文集 149）。

実践を通して学ぶ

地上の教育方法は、主が神聖な教育計画において定められたことを確認しています。子どもたちは、知識を日常生活の中で実践的に応用し、周囲の環境と結びつけることができる時に、最もよく学ぶことができます。幼少時から子供たちは、役に立つ実用的な仕事を学ぶべきです。それらは責任感、規律、辛抱強さ、忍耐といった資質を育む上で基礎となる能力の発達を容易にします。さらに、そうすることで、教育は有意義で豊かな経験へと変容し、試験に合格するだけでなく、人生の困難にうまく立ち向かうための助けとなります。これらすべては、聖書に基づくべきです。

聖書の教育

神は初めから教育を統合的なプロセスとして確立されました。創世記 1:27 には、人間が神に似たみかたち創造されたことが記されている。これは、神の知識がすべての教えの基礎でなければならないことを意味します。箴言 9:10 は、「主を恐れることは知恵のもとである、聖なる者

を知ることは、悟りである。」と述べ、真の教育はたしかに次の基本原則に従わなければならない強固な精神的基盤から始まるこことを強調しています：

「教育の働きと救済の働きとは最高の意味においては一つである。」9 教えは、品性の変化に導くものである必要があることを強調しています。

1. キリスト中心：神がすべての教えの中心でなければならない（コロサイ 2:3）。
2. 統合的：身体的、精神的、靈的な発達を包含する必要がある（ルカ 2:52）。
3. 実用的かつ応用可能：理論的なだけでなく、日常生活と他者への奉仕に焦点を当てている（マタイ 25:40）。
4. 品性形成：教育はキリストの姿を反映する品性を形成する必要がある。

「無我の精神は、すべての真の発達の基礎である。無我の奉仕を通して、あらゆる才能が最大限に啓発されて、われわれはますます深く神のご性質にあずかる者となる。われわれは心に天国をうけ入れるので、天国にふさわしい者となるのである。」10

5. 希望と贍いに焦点をあてること：人間を現世の生活と永遠のために準備させるべきである。「わたしたちに与えられた生涯の働きは、永遠の命のために準備をする働きである。そしてもしこの働きを神がなすべきだと意図された通りに成し遂げるなら、一つ一つの誘惑は、わたしたちが前進するのに役立つ。なぜなら、わたしたちがその魅惑に抵抗するとき、神聖な生活において進歩を遂げるからである。白熱する戦いの中で真剣な靈的な戦闘に携わっているかたわら、目に見えない代理者たちがわたしたちの側にいて、わたしたちの格闘を助けるようにとの任務を帯びている。そして危機において、強さと堅固さ、エネルギーがわたしたちに与えられ、死すべき人間の力以上のものを持つようになる。」11

キリスト教の教育は家庭や学校に限定されるものではなく、教会を靈的成長の基礎的な柱として位置づける。教会を通して、若者は、神との関係を深め、未来に向け

て強くなる助けとなる導き、支え、そして信仰の模範を得る。

終末の時に

「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる。」(イザヤ 58:12)。この厳粛な召しには教育が含まれています。

「サタンは自分の計画と原則を教育体系の中に織り込むのに、もっとも巧妙な手段を用いてきた。こうして子供や青年たちの思いをしっかりとつかんでいる。彼の考案をくじくのが真の教育者の働きである。わたしたちは神に対して、自分の子供たちを世のためではなく、神のために育て上げるという厳粛で神聖な契約の下にいる。彼らに自分の手を世の手の中に預けることを教えるのではなく、神を愛し、恐れること、このお方のいましめを守ることを教える契約である。彼らは自分たちが創造主のかたちに造られていること、またキリストが自分たちの形成されるべき型であられることが印象づけられるべきである。もっとも真剣な注意が、救いの知識を与え、聖潔と品性を神に似たものにする教育に払われなければならない。真の価値があるのは、生活の中に金糸のように織り込まれた神の愛と魂の純潔さである。人がこうして到達できる高さは、十分に理解されていない。

この働きの達成のために、広い基礎がしかれなければならない。新しい目的が持ち込まれて場所を見出さなければならない。そして生徒は聖書の諸原則を自分たちのなすべきことの適用するにあたり、助けを受けなければならない。なんでも曲がっていること、なんでも正しい筋から外れてねじれていることは、はっきりと指摘されて避けなければならない。なぜなら、悪は永続させてはならないからである。すべての教師は健全な諸原則と教理を愛し、大切にすべきである。なぜなら、これがすべての聖徒の道に反射されなければならない光だからである。」12

「しかし、あなたは、健全な教にかなうことを語りなさい。」(テトス 2:1)

この働きを遂行するためには、互いに支え合い、目的を達成するための支援ネットワークを構築する必要があります。現在、ここコロンビアでは、オデッド教育団体を通して、全てを包摂する教育方法を開発しています。その唯一の目的は、子どもと若者の中に神のみかたちを回復させること、そしてそれによって神が教育のために定めた本来の計画を回復することです。親には、子どもたちが神との重要なつながりを提供する責任があります。すなわち、子どもたちが学んだことを現実世界と結びつけることができるという体験を提供することです。しかし、これは親だけの義務ではありません。教会も、この偉大な使命を果たすための根本的な支えとなります。

神は信仰によって生きるよう呼びかけておられます。それは単に教会に通ったり、特定の慣習に従ったりすることではなく、むしろキリストにわたしたちの心と品性を形成していただくことです。この変化は、わたしたちの考え方や行動に反映されなければなりません。

世の光となるというわたしたちの使命は、子ども、若者、そして大人の福音を宣べ伝えるための教育から始まる。主の知恵がわたしたちの基礎となり、こうして主がわたしたちに理解力を与え、歩むべき道を教えてくださいますように！(箴言 1:7;詩篇 32:8)

引用：

- 1 教育 26
- 2 各時代の希望上巻 65
- 3 イエスの物語 30.
- 4 教育 2
- 5 キリストの実物教訓 307
- 6 教会への証 4巻 199.
- 7 教育 7
- 8 青年への使命 143
- 9 教育 22
- 10 教育 5
- 11 クリスチヤン教育 122.
- 12 教会への証 6巻 127.



今出て行こう！

バーバラ・モンテローザ著

人の命はなんとはかないことだろう！
この世はむなしいものにすぎないことを見てきた…
なんとかして、われわれはここまで来た—
小羊がほふられたからこそ、希望がある。

現代の真理に焦点をあてるごと：
すべての気を散らすものから一向きを変えよ！
主を求めるごとこそ、わたしたちの必要である；
キリストご自身のご臨在にこそ—しっかりとどまれ。

わたしたちの一生の旅路はつまらないもの、
このお方が下さった賜物を捨てることではない。

であるから、キリストに従う計画を立てよ
そしてこのお方の道を選びなさい—大胆に、勇敢に！

遠くに近くにいる魂は真理を求めている；
切望していることを知っている人がいるかもしれない。…
探る心のうちにちょうど埋葬されて
火は灯されて、やさしく燃えている。

今こそ率直な真理を語るべき時
口論や派閥の時間はない
泣きごとや言い訳の時間はない
わたしたちのすべての行為に信仰を示そう！

多くの迷った人々はふしげに思い、期待している
今は何もしないチャンスの時ではない
神のみ声が大きくはっきり響いている
今こそ、前進すべき時！

わたしたちの心のうちに真理を武装し、
そしてくちびるは炭から点火され
わたしたちは今祈ることができる、
「主よ、わたしの歩みを導いてください！
一人の愛する人へ、その魂へと」

太陽は沈もうとしており、時は短い。
命令を、わたしたちはみなよく知っている
わたしたちのよみがえられたキリストは
大きなはっきりとした声で召しておられる
しかし、今こそ、その時だ！出て行こう！